

教授法研究会編

中等
程度
入學
受驗
豫習書

東京
金港堂書籍株式會社

265
523

教授法研究会編

中等
程度
入學
受驗
豫習書

東京
金港堂書籍株式會社

明治
43. 2. 8
丙寅

東京
金港堂書籍株式會社

中等
程度
入學
受驗
豫習書

教授法研究会編

東京教育出版株式会社

新編 國語科 第一課

教授法研究会編

中學 程度 入學受験豫習書

教授法研究会編

第一篇 國語科

第一課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の漢字の讀方と解釋を問ふ。

熟練 別離 崩御 離宮 雌雄 賣買

群集 勞役 検査掛 完全 敵視 銳利

二 左の單文を讀みて、附線のところを解釋せよ。

(い) 皆分業に外ならぬのである。

(ろ) 共同團結シテ勞働ナイトハズ。

結語

離 賣 買 熟 熱 群 郡

墓・暮ツル

伐・代イカ
森シ・夜ヤ

眼・眠イ
央・史シ
洲・汗・酒・瀧

二

(は) 強ひて入らんとすれば立ちどころにさし殺す。
 (に) 六田の渡を渡りて上り行く坂路の左右すてに櫻多し。
 行くく吉野宮に参拜し、村上義光の墓をとぶらふ。眺望
 いよく開けて、満目總べて花なり。
 (ほ) 人ハ其ノ身體才能ナドニヨツテ、仕事ニ適不適ガアル。
 (へ) 森林の効用かくの如く著しきを以て、近年一定の森林
 を指定し其の樹木を一時に伐取ることを禁ぜり。かく保
 護せられたる森林を保安林といふ。

二 書 取

一 次の語句中知れるだけを漢字にて記せ。
 もくざうけんちくぶつちゆうせかいさいきうのものな
 るべし。
 フツウクハチタンエフトイヒ、ユノシユルキノハチフク

エフトイフ。

二 左の漢字を練習して暗書せよ。

麓 <small>フミ</small> の花 <small>ハナ</small>	結果 <small>ケツカ</small>	適當 <small>テキタウ</small>	機械 <small>キカ</small>	精神 <small>セイシン</small>	取扱 <small>トリアツカ</small>
周圍 <small>シウキ</small>	肉眼 <small>ニクガン</small>	通過 <small>ツウカウ</small>	中央 <small>チュウウ</small>	移 <small>ウツリ</small>	飼養 <small>シユウヤウ</small>

三 さんずる(ソ)のつく字を五つ書け。

三 綴 方

一 左の手紙を書くに必要なことがらを擧げよ。

(い) 買物を頼む文

(例) (ア) 買ふべき品物の名形或は使ひみち等及び其の數量 (イ) 代價凡そ何
 程位 (ウ) 受取りに行くか、送つてもらふか (エ) 特別のものならば、買ふべき
 處、或は家を指定する (オ) 必要あらば期日 (カ) 代金の送付方等を書くので
 ある。

(ろ) 机を注文する手紙。

季・李^リも

同じ發音で
異なる意義
のあるもの
は幾つか書
け

かなづかひ
に氣を付け
よ

二 次の話語體の句を文語體に改めよ。

(い) 吉野山は口中奥の千本の外、どこへいつても櫻の樹がないところはない。

(ろ) 秋冬の花が少い季節には、いつても食物のたりないことがないのは、みんな勞役の結果である。

(は) だから若しやたらに森林をきり荒す時は、五六時位の暴雨にもすぐに大水が出て、五六日のひでりにも河の水がすつかりかれてしまふでせう。

四

第二課 試験問題

一 左の假名をほんじにあらためよ。

ごゑとく じゆんいう けつこう せいり
ごりんせき けんちやう はいしやく ぜひ

すていしよん かうわくわい

二 左の漢字にかなをつけ、その意味を記せ。

熟考 敷地 繁茂 眺望 糧食 勞働
珍珠 快活 配達 複雑

三 次の文章中しるしのある字に假名をつけ且つ其の大意を記せ。

(い) 働蜂の若きものは内に居て幼蟲を育て、又は其の居室を營み、力強く壯なるものは外に出て花の蜜を吸ひ來る。百花満開の候には、外役の蜂は朝より夕に至るまで、營として寸時も休まず。

(ろ) 腦は精神ノ宿ル所ニシテ全身ヲ支配ス。物事ヲ知分ク
ルモ、善惡ヲワキマフルモ、喜ブモ怒ルモ悲シムモ皆腦ノ作用ナリ。

四 作文 題。勉強は幸福を生む母。

第三課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の文字に讀み方をつけ、圈點のあるものはその解釋をも記せ。

點 臨幸 意味 報復 點在 感興
復 復 復 不斷 百尋 故事 風聞 一天萬乗の君
徒 徒 徒 強 徒 教 樂 雪 圖 覺

二 左の漢字の讀み方を各知れるだけ述べて見よ。

三 左の文の讀方及び大意を問ふ。但し附點の箇處は摘出して解説を記せ。

(い) 武家の運命も今に盡きなんと罵りいきどほる聲ちま

警 驚

島 鳥

幸 幸 幸
特 持 侍 待

たに滿つ。御供仕うまつれる警固の武士もよるひの袖を
しぼらざるはなかりき。

(ろ) 會稽の恥を雪ぐことを得たり。

(は) かくして鳥轉じ、海廻りて、其の盡くる所を知らず。

(に) げにくくと皆うなづきて、折がらの夜半のあらしにそ
ののちは音もきこえず。

(ほ) 月影の小波にくだけ、漁火の波間に出没する夜景も亦
一段のおもむきあり。

二 書 取

一 次の△のところへ漢字を補つて適宜の熟字をつくれ。

勤△ △景 散△ △幸 教△ △達
△務 △步 團△ 親△ △持 通△

二 次の片假名を漢字に改めよ。

ウンメイ センヂヤウ グンカン シウキ
 キのミキ カイケフ タチマチ エンガン
 テンガニュトにウルハしくエませたまひぬ。
 ナヒロのウミのソユ。 イホへのしほぢ。

三 左の漢字に似たる漢字を列記せよ。

亦持待若
 綿聞警

赤待 苦 錦 開 驚

三 綴方

一 左の文章を話語體になほせ。

(い) 高く鼻つくいその香に、不斷の花のかをりあり。なぎさの松に吹く風をいみじき樂と我は聞く。

(ろ) 西洋人は此の瀬戸内海の風景を賞して、世界海上の大公園なりといへり。

(は) 身を殺して仁を成すことあり。とかや、義を見てせざる

斷斷

は勇無きなり。いでや臨幸の路次に参り會ひ、君をうばひ奉りて義軍を起し、名を子孫に傳ふべし。

(に) 式部は少しも高ぶりたる風なく、常に一といふ文字をだに知らぬ顔に過したりといふ。

二 左に記す要項により日記を作れ。

(い) 雨天であつたこと。 (ろ) 午前中友人が訪ひしこと。

(は) 午後その友人と、他の友人を訪ひしこと。 (に) 親戚から手紙が届きしこと。 (ほ) 友人に手紙を出し、こと。

第四課 試験問題

一 次の平假名を漢字に書き直しなさい。

ちゆうい だんたい せいざう ふつう
 こうげき ほうこく はいざう ふんしゆつ

防・坊・妨たげら

氣二氣

墓・暮ボ

隨意カ

輪・輸

逐・遂

二 次 of 字に讀方 of かなをつけなさい。

給炭船 海防艦 重砲車 吳越 共同團結

三 次 of 字 of 解釋をせよ。

氣候不順 精神ヲユラス 官公吏ノ事務

所存を上聞に達す 甚だ切なり

四 次 of 文に假名をつけ黒線を施したる文字は特に摘出して解釋せよ。

(い) 此のうらみ忘れ難く、越王勾踐つぶさに辛苦をなめて報復を圖り、范蠡といふ無二の忠臣の助を得て、遂に吳を滅して會稽の恥を雪ぐことを得たり。

(ろ) 其ノ他古陵墓甚ダ多シ。又畝傍山ノ東南ニ樞原神宮アリ。ユ、ニマウヅルモノ、誰カハ其ノカミヲオモヒ出デテ皇室ノ御威徳ヲ仰ガザラン。

作文

借りたる書籍を返却する文 (但し文體隨意)

第五課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次 of 短句 of 讀み假名を各漢字 of 右傍ヒキワケに記して、その下に大意を書け。

(い) 誰か人智の進歩の大なるに驚かざらん。

(ろ) 二物相待つに非ざれば用を爲し難きを、車の兩輪の如し。といふ。

(は) 驅逐艦の名こそ更に優美なれ。

(に) 總督府の經營も、着々其の効を見るに至り候。

(ほ) 軍艦中最モ優勢ナルモノニシテ、其ノ名ノ如ク堂々敵

ト決戦スルヲ目的トス。

二 次の字句に平假名にて讀方をつけよ。

優美 發展 雲霧 港灣 捕獲 潜航

發_ニ發_ス
獲_ニ獲_ス・獲_ニ護_ス
倍_ニ培_ス

縦貫 興味 材積 本刷 表紙 幾層倍

三 次の熟字の意義を問ふ。

無盡藏 特別任務 際限 擊沈 追懷

任_ニ仕_ル

會得 千差萬別 空談 情勢

二 書 取

一 左の文字を練習せよ。

規模 専_ラ 延長 運輸 應用 防禦
築港 競_フ 舊蹟 寫眞 活版 取離_ス

寫_ニ寫_ス

二 次の字句の中にて線を施してある文字を漢字に改めよ。

はうこく てんたつ なへのうるつけ

じてんしや せつきん はくぶつくわん

ハカリゴトナメグラス フナアシハアサシ

セカイムヒノリヤウザイトシヨウセラル

アメニハハルサメ・シグレ・ユフダチ・ムラサメナドアリ

モツトモフツウナルハニグルマ・シンリキシヤデアアル。

三 綴 方

一 次の文の題目を考へ出せ、そして一度書いて見よ。
拜啓久しく御無沙汰いたしましたが、貴君には御病氣との事今日伊藤君から承つて大に驚きました。その後の御容態(ようたい)は如何でございますか。不日(ふじつ)參上いたしますが、とりあへず手紙を以て御見舞申し上げます。敬具

十月三十日

太田 源 一

内山 幹雄 様

- 三 左の題目にて文を作れ。
- (い) 車。
- (ろ) 病氣見舞の文。

第六課 試験問題

一 解釋及び書取

- 一 次の文の大意を記せ。
小歌交りに老船頭のさをさし行く乗合舟ののどけさよ。筋骨たくまじき若者が艀を揃へて漕ぎ出す漁船の勇ましさよ。荷足高瀬茶船屋根船等其の目的により、大小構造千差萬別なり。
- 二 次の文に假名を附し、圈點の文字を講義せよ。
其ノ大ナルモノハ戰艦ニ次グノ勢力ヲ有シ、時ニ戰艦ト

字は丁寧にて書割を正し

合[○]同[○]シテ敵ノ主[○]カト戰フユトアリ。其ノ艦體ニ大小ノ差
アレドモ、何レモ多量ノ石炭ヲ積ミ、大ナル速[○]度ニテ長時
間航[○]海スルユトヲ得。

- 三 次の漢字に假名を附し解釋をなせ。

行動 浮城 航路 工事中 産額

- 四 次の假名を漢字に改めよ。

こうさく そうとくふ さいばんしよ
あんざいしよ なめしがは げんせう

二 作文

分業法 (但し口語體にて平假名を用ふべし)

第七課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 左の字句の讀方及び解釋を問ふ。

明：朋とも

元服

平然

證明

間隔

丹誠

快活

證：証

謹嚴

聲譽

歡心

無賴

笑罵

模範

聲：聲

本意を遂げよ

長途の騎行

一家舉ツテ笑フ

歡：勸クワン

二 次の文章の大意を語れ。

(い) 親子夫婦・兄弟・姉妹ヨク和合スレバ、互に相助ケテ各其ノ家業ヲ樂シムヲ以テ、家運自ラ開ケテ一家ノ内笑フエ

ト多シ。

品：品

(ろ) 他人ノ惡事短所ヲアザケリ笑フハ、己ノ品位ヲ下ス所以ナリ。

與：與

(は) かくて光範の與へたる刀には事の由を書添へて送り返し、心の變るべきこともあるべきかとして、其の後は一度

も院の門外へは出でざりきとぞ。

功：巧カウ切キ

(に) 其の初め小事にしのびしは、後大功を立つるに至りし所以なり。

(ほ) 少しも疑ふ心なき正儀の様を見ては、刀のつかに手をかくべきやうもなし。思はず大聲をあげて泣號びぬ。

(へ) アラビヤ人はこゝに始めて馬に全速力を出させて、雲を霞と逃げのびた。間もなく日は暮れて、夜のとばりは全く馬主の行方をかくした。

二 書 取

一 左の漢字の上或は下に隨意な漢字を幾字にても附けへて熟字を作れ。

騎 途 論 衛 優 切 合 擊

二 次の片假名を漢字に、平假名を片假名に書き改めよ。

(い) カネをハラつてもナしくはない。

(ろ) タダヒトリテキユクへやらんもユロモトなし。
 (は) タイキヤクしなければゼンツツです。
 (に) グンサウはヂユウシヤウをもうちワスれ。
 (ほ) テツダウのカイツウせしより、シヤウユウゲフのハツ
 タツイナシルし。

三 左の字を練習して暗書せよ。

式 戒カゲイ
 國 國クニ
 戲ウタれ 省カヘリミル 七クワイ回忌キ 儀キ式シキ 談ダン笑カウ
 敵テキ彈ダン 追オヒ拂ハラフフ 國クニ旗キ 皮ヒ膚フ 杉スギ垣ガキ 便ベン益エキ
 三 綴 方 耳ミミ目メ

一 左の誤を正せ。

(い) 與へんとすれども受けざりき。
 (ろ) 私儀明日参上いたし候由御知らせ申すべく候。
 (は) 母事御病氣に候はゞ残念ながら見合せ申候。

(に) 月影出でたらんには畫の如く明なり。

二 次の題目にて文章體の文を作れ。
 花見に行きしことを友達に知らする文。

第八課 試験問題

一 解釋及び書取

一 次の字の讀方及び解釋を問ふ。
 不愛敬 公明正大 丹誠の結果 寫眞帖
 忌日 元服 旅行日記 衛生
 短所 信實

二 次の文の大意を講義して、附點の文字には片假名にて讀方を附けよ。

(い) 天皇より賜はりし具足一領を取出して與ふ。熊王恩に

續ニ續

舊ニ旧

感じて涙せきあへず。夜に入りて討つべきは今なりと心
を取直せども、年頃の恩愛殊には今日の元服の事等思ひ
續けては、如何でか討たるべき。
(ろ)昔ナガラノ山河、一木・一草盡ク上古ヲ談ゼザルナシ。名
所・舊蹟ヲアマネク尋ネンニハ、幾月ノ巡遊モ尙足ラザル
感アルベシ。

三 次の假名を漢字に改むべし。

ジ・ユンヤウカン ガイロセイゼン ヤクソク
タツシヤ トビナル シヤウハツ

二 作文

物を郵送するに添ふる手紙の文 (平假名交り候文體にて作れ)

第九課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 左の字句の讀方と意義を問ふ。

歡ウレシ・觀クワン・勸クワン
榮エイ・營エイ

突貫 理由 歡喜の聲 祝宴 法會 光臨
鹽梅 經濟 招待狀 御贊同 記念碑 舉行
光榮の至 準備の都合 進軍の調

二 次の文の大意を語れ。圈點の箇處は特に摘出して解釋せよ。

旅リョ・旋セン
芋カン・竿マサ
植シヨク・殖シヨク

(い)或時旅僧ヨリ此ノ芋ノ話ヲ聞キテ大イニ喜ビ直テニ
種芋ヲ薩摩ヨリ取寄セテ之ヲ試植セシニ、其ノ出來非常
ニ良カリシ。

(ろ)兵士等はあわてて異口同音に「將軍の命は我々千萬人

命メイ・命メイ

續_ニ統

舊_ニ旧

感じて涙せきあへず。夜に入りて討つべきは今なりと心
 を取直せども、年頃の恩愛殊には今日の元服の事等思ひ
 續けては、如何てか討たるべき。
 (ろ)昔ナガラノ山河、一木一草盡ク上古ヲ談ゼザルナシ。名
 所_ニ舊蹟_ヲアマネク尋ネンニハ、幾月ノ巡遊モ尙足ラザル
 感アルベシ。

三 次の假名を漢字に改むべし。

ジ・ユンヤウカン ガイロセイゼン ヤクソク
 タツシヤ トビナル シヤウハツ

二 作文

物を郵送するに添ふる手紙の文 (平假名交り候文體にて作れ)

第九課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 左の字句の讀方と意義を問ふ。

突貫	理由	歡喜の聲	祝宴	法會	光臨
鹽梅	經濟	招待狀	御贊同	記念碑	舉行
光榮の至		準備の都合	進軍の調		

二 次の文の大意を語れ。圈點の箇處は特に摘出して解釋せよ。

旅_ニ旋_ル 榮_ニ營_ニ 歡_ニ觀_ニ 芋_ニ竿_ニ 命_ニ命_ニ

(い)或時旅僧ヨリ此ノ芋ノ話ヲ聞キテ大イニ喜ビ、直チニ
 種芋ヲ薩摩ヨリ取寄セテ之ヲ試植セシニ、其ノ出來非常
 ニ良カリシ。
 (ろ)兵士等はあわてて異口同音に「將軍の命は我々千萬人

の命より貴い。ピエールは我々にお任せ下さい。といつて引止める。

(は) 勇み勇みて出で行く兵士はげましつつも見送る一家。

勇氣は彼に、情は是に、勇まし、やさし、を、しの別。

(に) 御多用中恐入候へども、御參列成し下され候はば、有り難く存じ奉り候。敬白。

三 次の略字の讀方を書け。

当 救 来 声 礼 讀 困 写

二 書 取

一 左の平假名を漢字に改めよ。

こけんしよう たにそこ たいこ じんりよく
こゑをそろへ とくしつ しょくむ じゆくれん

二 次の字句の片假名を漢字に改めよ。

建	クツ下	クワイ畫	キ械	レウ理	光エイ
健	ビ式	御アン内	太エ	テイ園	分リ

三 綴 方

一 次の文句のうち口語體は文章體に、文章體は口語體に書き改めよ。

- (い) エンナ手、數ガ省ケテ、ムダニ時間ヲ費スエトガナイ。
- (ろ) めい、く、勝手な形を造つたなら、それを完全な時計に組立てることは出来ない。
- (は) 帆の運用自在なれば、風の方角に關らず、十分に風力を利用することを得。
- (に) ソレ故近年ハ木版ガ段々スタレテ、活版ヲ用ヒルコトガ多クナツタ。
- (は) 笑は心身の良藥なれども、時と場合とによりて笑ふべ

列例

版板坂
薬樂

からざることあり。

二 次のはがき文を電信文になほせ。

昨夜隣家山田常太郎様方物置より出火しましたが折から北風烈しく爲に當家も半焼となりましたから、御用くり合せて至急御歸宅下さる様御待ち申して居ります。

第十課 試験問題

一 書取及び講義

一 次のかなを漢字に改書せよ。

だんけつ いくどうおん あいじやう
ぜひ ごくわうりん しもばしら

二 次の讀方と意義を問ふ。但し(い)と(ろ)を一枚の紙に記し(は)は別の紙に記すべし。

(い)理由 法會 無數 通過 發達 占領

(ろ)御光來下され。 さらば行くか、やよ待て。

心中一點の曇ナキモノハ。 水中を潜航す。

(は)橘中佐ハカツテ皇太子殿下ノ御附武官トシテ、日頃御信任ノアツイ人デアツタ。三十七年ノ八月ニ大隊長トシテ戦地ヘ向ツタガ、中佐ハ今度ノ出陣ヲ幸ニ、帝國ノタメ、天皇陛下ノ御タメニ、メザマシイ働ナシナケレバナラナイト、八月末ノ首山堡ノ戦ニ、勢銳ク進撃シタ。

二 作文

題 瀬戸内海 (片假名交り口語體の文に作れ)

第十一課 練習問題

一 讀方及び解釋

獻_二座_一 坐_二座_一 齒_二齒_一

師_二帥_一 畫_二画_一 選_二撰_一

祖_二組_一 産_二彦_一 爲_二為_一

一 次の漢字の讀方と意義を問ふ。

滋養 消化 獻立 寢食 坐食 年齢

路傍 徒費 寄食 非凡

二 左の字句を解釋すべし。

(い) 一寸の光陰も輕んずべからず。

(ろ) 片言隻句も我等が師なり。

(は) 此の畫の出來たる由來こそ面白けれ。

(に) 満足ヲ買フベキモノヲ選バナケレバナラヌ

(ほ) 約束の時日を違ふるが如きは時間の賊なり。

三 次の文に假名を附し附圈の字を講義すべし。

(い) 身を立て、父母をあらはすも、産を破り、祖先をばづかしむるも、功業をなし、公益を廣むるも、將又無爲にして一生を終ふるも、唯此の二十萬時間を利用するとせざるとに

處_二処_一

殘_二錢_一 賤_二思_一

幕_二暮_一 墓

あり。

(ろ) 我衣食の費をいとふにあらざれども、何處へなりとも出でて遊び給へ。愚僧も所用ありて京へ上り、一二年在京せんもはかり難し。といへば、畫工そはいと名殘をしき事なり。さらば年來の謝恩に何か書きて參らすべし。として心構せし様なりし。

(は) クハシク其ノ作方貯藏ノ方法等ヲ記シテ幕府ニ奉レリ。幕府ハ此ノ書物ニ種芋ヲ添ヘテ、島々ヲ始メ内地ノ所々へ配布セシカバ間モナク全國ニ作ラル、ニ至レリ。

二 書 取

一 次の假名を漢字になほせ。

やさい きうやう(ヤスマヤ) はうもん きれい
いいうぎ みれん さしき ぜつべき

實_ニ実_ト
應_ニ応_ト

二 次の漢字を練習せよ。

材料	實際	交通の機關	貴重	志望者
季節	應接	活動敏速	運輸	順番

三 次の漢字の略字を書け。

齒	當	類	獻	變	質
---	---	---	---	---	---

三級方

一 左の言葉の變化を示す文句をつくれ。

行く	押す	立つ	待つ	好む	貴ぶ
(例) 行く					

(い) 今行く

(は) 昨年行きたり。

(に) 博物館に行けば面白し

(は) 早く行けよ。

(へ) 上野へ行けば見て来ませう

(と) 共に行きて語らん。

二 次の文句を文語體に改めよ。

(い) 常ニ清潔ニシテ置カナケレバナラヌ。

(ろ) 知名の人の手紙を持つて来た者も大勢あつたのにと、ういふ御見込で、あの青年を御用ひになつたのかとたづねた。

(は) カウイウ工合ニソレ_レ變ツテキル。其ノ形モマダ様々デアル。

三 次の文を作れ。

健康

第十二課 試験問題

一 讀方及び講義

一 次の假名を漢字に改めよ。

だいどころ れうりだうぐ そんしつ

輕傳
輕傳

びくわん(ケシキナ) いうらん

だんやく

三〇

二 左の字句の讀方及び講義を問ふ。

輕重 敬禮 傳説 奇觀 到着

眞に名狀すべからず 筆勢非凡にして丹青の妙いふべからず。

三 次の文章の大意を記し、附線の字にはかなをつけよ。

(い) 人生の長短は事業の大小を以て量るべく、年齢の多少を以て量るべからず。

(ろ) 二人の我が子それくに、死所を得たるを喜べり。これぞ武門の面目」と大將答力あり。

二 作文

題 春景色 (口語體、假名隨意、二百字以内とす)

第十三課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の文の讀方のかなをつけ、線を施しある箇處を解釋せよ。

(い) 數隻の漁舟相並び、波にくたくるかゞり火の下に、百にも近き鵜、此方に浮び、彼方に沈み、彼處にかくれ、此處にあらはれ、之を取圍みて數十隻の遊船、岐阜提灯(テウチン)の光を水にうつせる奇觀は筆も言葉も盡し難し。

(ろ) 其ノ作業ノ間ニハ綿花ノ細片四方ニ飛散シテ、吹雪ノ風ニクルフガ如シ。既ニ筵綿トナレバ梳綿機ニカク。コレニハ細小ノ針金ニテ作りタルブラツシノ仕掛アリテ、筵綿ヲ引延シナガラ細カキ雜物ヲ去ル。アタカモ人ノ頭髮

團丸 團

綿 錦にし

針 釘クギ

ナクシケヅルニ似タリ。

(は)其ノ商人ハ試ミニ之ヲ英・米二國ヘ送リシニ翌年英國ヨリ註文アリシヲ始メトシ、ドイツ・アメリカ等ノ諸國ヨリモ續々註文ヲ受ケ、販路次第ニ開ケ、此ノ業ヲ營ムモノモ亦追々ニ増加シ、遂ニ今日ノ盛大ヲ見ルニ至レリ。

二 次の字句の讀方及び意義を問ふ。

- 整然 熟練 收穫蟻 精巧 紡織工場
- 獲物 手練 考案 浮沈 右往左往
- 失敗ノ上ニ失敗ヲ重ネ 無限ニ多シ
- 花ハ櫻木人は武士

二 書 取

一 次の假名を漢字にて書け。

くわいてん きびん せんとう こうい(あつあ)

たきぎ へや ずみい こうらう(てが)

二 次の假名文を漢字交りの文になほせ。

(い) シユンジウリヤウドノタイサイニハカナラズナヨク
 シナサシタテラレ、リクカイグンシヤウソツノサンバイ
 アリ、シユノヨキヨウモオユナハル。
 (ろ) ちよくせんをてきたうのながさにきり、いつていのみ
 あひをおきて、あるひはたてに、あるひはよこにならぶる
 ときは、うつくしきもやうをしやうず。

三 綴 方

一 次の文の誤を訂正せよ。

- (い) 風強く吹きしかども、樹はたふれざらん。
- (ろ) 雨降るとも我は行けり。
- (は) 明日出来上り候へばおとゞけ下されたく候。

二 次の句を連続して一文とせよ。

- (い) 靖國神社ハ九段坂ノ上ニアル。
- (ろ) 靖國神社ニハ軍事ニ功勞ノアツタ人ヲマツツテアル。
- (は) 靖國神社ノ大祭ハ春ト秋トノ二度アル。
- (に) 靖國神社ノ大祭ニハ必ず勅使ヲ差立テラレル。
- (ほ) 靖國神社ノ大祭ニハ陸海軍將卒ノ參拜ガアル。
- (へ) 靖國神社ノ大祭ニハ種々ノ餘興ガ行ハレル。

第十四課 試験問題

一 讀方及び書取

- 一 左の假名を漢字に改めよ。
じゆえうとききょうきふ くわんけい
じようき はつめい きようけい

二 左の讀方及び解釋を問ふ。

- 貯藏 餓死 配布 保證 拜殿

三 次の字句をかなにて記し、圈點の箇處を講義すべし。

- (い) 周圍の雜草を食切りて。
- (ろ) 鹽カライモノヲ配合スル。
- (は) 追手が接近すれば速力を速め。
- (に) 翌朝警固の武士ども之を見つけて、何事を如何なる者の書きたるか、讀みかねて上聞に達したり。主上は詩の心を御さとりありて天顏殊に麗しく笑ませ給ひぬ。

二 作文

題 病氣を見舞はれたる返事。

右平假名交り口語體に綴るべし。

第十五課 練習問題

一 讀方及び解釋

掘クツ 掘ほり
與ヨ 與あ 與た

- 一 左の漢字の讀方と意義を問ふ。
費用 普通 非常 轉業 大略 凍結
航路 採掘 復興 信賴
- 二 次の句の解釋をなせ。

情セイ 清セイ 情セイ

- (い) 英明ニシテ大志アリ。
- (ろ) 忠君ノ至情ヨリ發ス。
- (は) 諸種の經營追々成功致し候。
- (に) 普通の價を本として上下すと知るべし。
- (ほ) 是即ち農業の收穫に異ならず。
- 三 次の文章の大意を記せ。但し附點の箇處は讀方のかな

對タイ 對たい
第ダイ 第だい
減ケン 減げん
復フク 復ふく
腹ハラ 腹はら

を附けよ。

伐タイ 伐たい

若ワカ 若わか
苦ク 苦く

(い) 又之と反對に、價次第に安くなりて、普通の價よりも下るに至る時は、次第に其の製造高を減ずるが故に、供給も随つて減じて、又普通の價に復するか場合によりては、尙それ以上に上るべし。

(ろ) 之を伐採せば少からぬ收益と相成るべく、又山脈の兩がには石炭層各所にあり殆ど無盡藏に候へども、未だ盛に採掘に着手せらるるには至らず候。

(は) 戦場に出でん時は髪を染めんと思ふなり。平生にても、若き人は白髪を見て悔る心あり。まして戦場にては、進まんとすれば、大人げなしとあざけり、退く時には、今はかなふまじとそしる。白髪頭にて若き人と先を争ふもはゞかりあり。悲しきは老の白髪なりといひたり。

(に) 鐵道が出来て、汽車の運轉をして見る日になると、四方からの見物人は雲の如く集つた。中には汽車と競走する積で、馬に乗つて來た人もある。

二 書 取

- 一 次の平假名を漢字に改めよ。
きりつ するしノへう たいりつシテ
しんらい ぼくちく かんききびシク
- 二 左の漢字に扁或は冠をつけて、他の漢字をいくつにても構成すべし。

長 林 分 田

三 綴 方

- 一 左の題にて口語體の文を片假名にて綴るべし。
- (い) 東京見物を勧める手紙。

雲・雪セツ
積・續セキ
漬・蹟セキ

○扁は字の
左傍、冠は
字の上部に
ある

當 地
● 池 他

學 助
● 肋

例 秋モ半トナリマシテ、大分御涼シクナリマシタ。貴家デハ皆々様御無事トノ過日ノ御手紙、何ヨリ結構ノ事ト存ジマス。サテ叔父様ニハマダ當地へ御來遊ニナツタコトハ御アリナサラストノコトデアリマスガ、御國カラ東京マデハ、モハヤ汽車モ通ジテ居リマスシ、五六時間デ參ラレマス事ユエ、此ノ時候ヲ幸ニ、東京見物ニ御出デ下サイ。御子供衆御同伴ナラバ、修學ノ御助ケニモナル事ト信ジマス。不行届ヲ御辛抱下サラバ、私方デ御宿ヲ致シマスカラ、御遠慮ナク是非御出デ下サイ御持チ申シテ居リマス。

九月五日

河 田 善 吉

山 口 良 雄 様

第十六課 試験問題

一 讀方及び解釋

- 一 次の讀方及び意義を問ふ。

(に) 鐵道が出来て、汽車の運轉をして見る日になると、四方からの見物人は雲の如く集つた。中には汽車と競走する積で、馬に乗つて來た人もある。

二 書 取

- 一 次の平假名を漢字に改めよ。
きりつ するしノヘウ たいりつシテ
しんらい ぼくちく かんききびシク
- 二 左の漢字に扁或は冠をつけて、他の漢字をいくつにても構成すべし。

長 林 分 田

三 綴 方

- 一 左の題にて口語體の文を片假名にて綴るべし。
- (い) 東京見物を勧める手紙。

雲・雪
積・積
積・積

○扁は字の
左傍、冠は
字の上部に
ある

當 池 他

學 助 助

例 秋モ半トナリマシテ、大分御涼シクナリマシタ。貴家デハ皆々様御無事トノ過日ノ御手紙、何ヨリ結構ノ事ト存ジマス。サテ叔父様ニハマダ當地へ御來遊ニナツタコトハ御アリナサラヌトノコトデアリマシマスガ、御國カラ東京マデハ、モハヤ汽車モ通ジテ居リマスシ、五六時間デ參ラレマス事ユエ、此ノ時候ヲ幸ニ、東京見物ニ御出デ下サイ。御子供衆御同伴ナラバ、修學ノ御助ケニモナル事ト信ジマス。不行屈ヲ御辛抱下サラバ、私方デ御宿ヲ致シマスカラ、御遠慮ナク是非御出デ下サイ御持チ申シテ居リマス。

九月五日

河田善吉

山口良雄様

第十六課 試験問題

一 讀方及び解釋

- 一 次の讀方及び意義を問ふ。

新版圖 特殊 英雄 智謀百出 故障

二 次の句及び文章を解説せよ。但し圈點のある字には讀方を附すべし。

(い) 死力を盡すべし。 (ろ) 旗を反し鼓を鳴らし。

(は) 唯一の不凍港として僅かに内地との交通を保ち居候。

(に) 朝の起床より夜の消燈まで一々喇叭の合圖により、又毎日朝夕兩度の人員點呼も御座候。

三 次のかなを漢字になほせ。

キフカウレツシヤ ナンチヤク クセモノ
セイケツケンサ センパン サイシヨ

二 作文

題 勤儉の徳 (片假名、口語體に作れ)

第十七課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の熟字の解釋を問ふ。

大抵 案外 構造 數條 必要 辛抱

冠禮 斬髮 村落 勸業

二 左の字句の講義をなせ。

(い) 村々相應じて聞える。

(ろ) 鹽・醬油を買ふに餘あり。

(は) 幾度の改選にも常に選舉せらる。

(に) 互に競争するが如きこと更になし。

(ほ) さらばとて原案のまゝに決議せり。

三 次の文章に讀み方のかなをつけ、附線の字は解釋をな

條 抵 勸
低 觀

度 更 議
席 吏 儀

すべし。

(い)此のオンドルがある爲に、普通の家では冬でも家具を用ひない。オンドルにたく薪がないと、冬が越せないから、朝鮮では「米のないのは辛抱も出来るが薪がなければ生きてゐられぬ」といふ意味のことわざがある。

(ろ)村役場と學校とは相並びて村の中央にあり。村長は村の舊家に生れ、極めて親切公平なる人なれば、深く村民に敬愛せられ、二十餘年間勤續せり。

(は)箱根山ハ東海道ノ通路ニアタレルヲ以テ、昔ハ人馬ノ往來甚ダ盛ナリキ。山上ナル蘆湖ノホトリニ關所アリテ、日暮ヨリ後ハ一切旅人ノ通行ヲ差止メタレバ、諸大名其ノ他旅客ノ宿泊スルモノ多カリキ。

(に)兵舎内には歌をうたふ事、高聲にて談話すること、所定

具・貝ガイ

舊コウ・旧キウ

關カン・関カン

止トモ・正テイ

泊トク・伯ハク

堅ケン・賢ケン

街ガイ・衛エイ
樂ラク・藥ヤク

以外の場所にて煙草を吸ふこと等堅く禁ぜられ居り候。多人數の共同生活に候へば、是はもとより當然の事に候。

二 書 取

一 次のかなを漢字にて記せ。

セツメイ	ケイヒ	ナヤクジツ
イケン	ヨサン	ソツゲフ
シドウ	キモノ	ネツシン

二 次の漢字を練習して後に暗書せよ。

市街	旅客	安樂	講義	所持品	兵營
噴火	賣買	銳利	飼養		

三 綴 方

一 次の口語文を候文體に書き改めよ。

- (い) たんぐ寒くなつてまゐりました。
- (ろ) 幸に私の宅では一同無事であります。
- (は) きのふ無事に歸りましたから御安心下さい。
- (に) 二三日御借り申したいものですが、如何でございませうか。
- (ほ) 御さしつかへがありませんなら、御いつしよにまゐりたいと思ひます。
- (へ) かういふ時候ですから、御看病に充分御氣をおつけなさるやうにねがひます。
- 二 次の題にて文をつくれ。
雑誌を註文する文。

第十八課 試験問題

一 書取及び讀講

- 一 次の平假名を漢字にて書け。
ざいさんか にはとりヲかフ はついく
くわけふ しょくむべんれい

二 左の讀方と解釋を問ふ。

- 耕地整理 肥料の利目 轉變 當然の事
平素 經費

三 左の文章の大意を記せ。

其の利益を以て學校の基本金とし、其の一部をさきて、一村共同の有益なる費用にあつることとせり。萬事此の有様なれば、二十年來未だ一人の犯罪者を出したる例なし。

二 作文

題 入學試験の合格を兩親に通知する文。

右平假名にて文語體に綴るべし。

第十九課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の漢字の讀方をその右傍につけ、意義をその下に記すべし。

植林 改修 豫算 同胞 遺風 全快

説明 酒保 講談 周密

二 次の文章を讀め。但し附線の字は摘出して解釋を附すべし。

(い) 縣下諸村に先んじて着手し、昨年既に之を完成せり。之によりて灌漑排水其のよろしきを得て、水田は乾田となり、二毛作をなし得る良田を得るに至れり。

算^ニ筭^ノ 遺^ノ遺^ノ 密^ノ密^ノ
○ 摘出^ト

昨^ノ作^ト

暴^ノ暴^ノ

到^リ致^ス

蠶^ノ蚕^ノ

仰^テ抑^テ迎^テ

(ろ) 何か不都合なる事ありて、罰に處せられたる者は外出を禁ぜられ、又重きものは營倉に入れられ候由承り申候。(は) 村費を議するにも大抵原案を可決するを常とす。或年暴風雨の爲に不作なりしことあり。其の翌年學校の經費を議するに當り、村會にては其の豫算の不足なるべきをうれへて、之を増加せんとせり。

(に) 御手紙今朝到着拜見仕り候。少しも御障なく入らせられ候由、一同安心仕候。姉上も最早御全快にて四五日前より起きて蠶の世話をなされ居り候。

(ほ) 神代はるけき昔より君臣分は定まりて、萬世一系動きなき我が皇室の大みいづ。あまねき光仰ぎ見る同胞に五千萬。

二 書 取

一 次の假名を漢字になほせ。

オミヤウラ	ニモツ	インヨウスキ	ヨウイ
ドリヨク	ラウドウ	ハンバイ	ダウジ

二 左のかな文を漢字交り文に改めよ。

(い) まづはきんじやうごはうちまうしあげそろ。

(ろ) たいしやうのなかまにくは、り、だいさばくをわうら

いするをげふとせり。

(は) すこしもふじいうをかんにまうさずそろ。

(に) せいねんのきふうをやしなひ、ちとくをみがくをもく
てきとせるせいねんくわいあり。

三 一・二に於てなほしたる漢字のうち略字を知れるもの
をあげて見よ。

三 綴 方

一 左の題にて文を作れ。

(い) 川中島

(ろ) 關ヶ原

(例) 上野より汽車に乗り、高崎を経て信越線を進み碓氷峠のトンネル二十六を通過すれば、信濃國に入る。左右の連山或は高く、或は低く、我を迎ふるが如く、送るが如し。巍々として黒烟を噴く淺間山、滔々として矢よりの速き千曲川、眼界に入りては隠れ隠れては入る。かくして八時間餘を経て平野に出づ。此の平野は六郡に互り廣さに於て縣内第一なり。所謂川中島は此の地方に在りて、犀千曲兩川の相合する中間の地を總稱して云へるなり。足利氏の末世戰國時代に越の上杉謙信が陣營せし西條山、甲の武田信玄が據りし茶臼山、今も尙相對して此處に兩英雄が十有餘年間戈を交へし往昔を語るが如し。されど今や桑葉は稔に茂り、米麥は時を得て實り、汽車は日に幾回平和の人を載せて走る。地下忠勇の士、今や如何なる夢が結べる、世の變遷實に知る可からざるなり。

○まうしは
まをしも
かく

稱|| 稱
總|| 總
陣|| 陣
戍|| 戍
稔|| 稔
載|| 載
戴|| 戴

第二十課 試験問題

一 書取及び講讀

一 次の字句を漢字にて記せ。

れいき きんべん けういくちよくこ るふう

あしあと とうだい

二 次の漢字に假名をつけ、解釋せよ。

天職 萬世一糸 着手 當初 世界有數

註文狀 叔母 坑道

三 次の文句の大意を問ふ。附圈のところは特に摘出して

讀み假名をつけよ。

(い) 戊申の詔書かしこしや。

(ろ) 晝夜止む時ナシ。

(は) 江戸城及び日光東照宮等の造營に用ひたる銅は、大抵此の山より産出したるものなりといふ。然れども其の頃は掘取りてふき分くる方法なほ不十分なりしかば、産出高の割合には人手を要すること多かりしなり。

二 作文

題 足利尊氏

右片假名にて話語體に作れ。

第二十一課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の熟字の讀方及び解釋を問ふ。

拜讀 御聖徳 遺風 連敗 回復 組織

空前 集中 興廢 戰鬪旗

廢 廢
廢 廢

二 左の文字の讀方を各知れるだけ記せ。

幾 居 空 誘 誠 頼 見 通

三 左の句を解釋せよ。

(い) 見るにもいとゞ輕げなり。

(ろ) 其ノ良否を選び分ク。

(は) 母船を離れて、我先にと漕いで行く。

(に) この心ありてぞ其の目的は達し得らるべき。

(ほ) かしこしともかしこき極みなり。

四 次の文章を讀め。

(い) 漕抜けた一隻は勇氣をふるつて、見る内に一頭の鯨に近寄り、急處めがけて破裂矢をしかけた銛モウを打つ。小山の様な白波が高くくだけて、夕立のやうに降散る。鯨の一群は影も形も見えなくなつた。

矢・失シツ

吹・吸キウ

體タイ

限・眠リミ

例・列・到・烈
亂ラン

斷タン
料・科

(ろ) 英國東海岸の一島に燈臺あり。或夜にはかの嵐に吹かれて、此の燈臺附近の岩に乗上げたる帆前船あり。船體二つにくだけて、一半ははや大波にさらはれたり。生残れる水夫は破れたる船體にすがり、さかまく波にもまれて聲を限りに救を呼べり。
(は) 敵の先頭部隊は直ちに砲火を開始せしが、我は之に應ぜず、距離六千メートルに近づきて始めて應戦し、はげしく敵を砲撃せしかば、敵の艦列忽ち亂れ、早くも戦列を離るゝものあり。
(に) イヅレモ大規模ニ出來テキテ、盡ク蒸汽ヤ電氣ノ力ヲ利用スル。何千貫トイフ大鐵槌モ一人ノ手デ自由ニ運轉スルユトガ出來、何時イシテモアル厚イ鐵ノ板デモ、大根ヲ切ル様ニ切斷スル。船體ノ材料ガ整フト、組立ニ取リカ、ル。

二 書 取

一 次の假名を漢字になほせ。

ハイサツ フンレイ シユクレン ツク
フナヤク ワウセキ ナンパセン ソラモヤウ

二 次の各組の○印のところへ適當の文字を入れて熟字を作れ。

主○艦隊 信○旗 萬○ ○氣 銅○
○院 看○ 運○ ○麗 ○客

三 綴 方

一 次の話語體の句を文語體に改めよ。

(い) 此ノ大キナ湖水カラ流レ落テタ水ノ力ハハカリ知ル
ユトガデキマセン。

(ろ) 鯨をつかまへる法にはこの外に汽船の備砲から銛を

打つしかたもある。

(は) 人の肩車に乗つたり、渡船に乗つたりして渡つたのであつた。

(に) ドンナ發明モ、一度ヤ二度ノ不成功デ氣ナクシク様デハ出來上ルモノデハナイ。フルトンガ工夫ニ工夫ヲ重ネテ造ツタ最初ノ船ハフランソノセイヌ川ニ浮ベタガ、不幸ニモデキニ沈ンデシマツタ。

第二十二課 試験問題

一 解釋及び書取

一 左の讀方と解釋を問ふ。

設計圖 奇績 一致協同 警戒色 裏面
發足 無慮 悲鳴

二 次の字句の附線の字にふりがなをつけ、且つ全體の大意を講義すべし。

(い) 治に居て亂を忘れざるも此の心なり。

(ろ) 息も絶えぐに救を呼べり。

(は) 勝敗の數は既に定まれり。

(に) 殊ニ我が軍ノ損失死傷ノ僅少ナリシハ歴代神靈ノ加

護ニ依ルモノト信仰スルノ外ナク嚮ニ敵ニ對シ勇進敢

戦シタル麾下將卒モ皆此ノ成果ヲ見タルニ及ンデ唯唯

感激ノ極言フ所ヲ知ラザルモノノ如シ。

三 次のかなを漢字に改めよ、

ほりよ ほかく はんえい あくしう どく

二 作文

題 遠足に誘ふ文(平假名、候文體に作れ)

第二十三課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の漢字の讀方及び解釋を問ふ。

包圍 降服 設計圖 鍛工場 附屬具

倉庫 私設 氣象 測候所 豫告

屬屬
測・側・倒

二 左の句の大意を問ふ。但し附線の文字は讀方のかなをつけよ。

(い) 非常ナ手數ガ掛ル。

(ろ) 生活費を支へ得ると言つたものである、

(は) 今更に言ふまでもなし。

(に) 必ず存在せずといふことなし。

(ほ) 又一地方に荒模様ある時は、測候所は地方暴風雨警報

掲揚トウヤウ

類ルイ類ルイ

斯期スキ

埋理マイリ

飯飲イシヤク

を發して之を豫告し、警報の信號を各信號所に掲ぐ。信號は警報の種類によりて異なる。

(へ)火は空氣なければ燃えず。臺所にて火吹竹を使ふも、かち屋にてふいごを用ふるも皆空氣を送りて、火の勢を盛ならしむる爲にして、火消つばの火の消ゆるは空氣の供給絶ゆるが爲なり。

(と)動物は呼吸作用によつて、空氣中の酸素を吸ひ、炭酸瓦斯を吐出す。若し之を消費するものがなければ、空氣中には炭酸瓦斯を段々に増加し、遂には地球上の動物が呼吸作用を營むことが出来なくなる道理である。

(ち)飲食に注意し、身體の清潔を保ち、適度の運動を怠らず、早く寝ね、早く起き、新しき空氣をすひ、常に日光に浴して、なほ病にかゝらば、是我がにあらず。

二 書 取

一 次のかなを漢字にて記せ。

ミマヒ、 アケハナス、 サウダン、 サンボ
 オンキ、 ハンプク、 ツツミ、 ハイブツ

二 次の漢子を練習せよ。

肥料ヒョウリョウ、 強弱キヤウジュウ、 觀測クワンソク、 旅館リョウイン、 承知ショウチ、 子供衆コドモシユウ
 名譽メイゴ、 食堂シヨウダウ、 皮膚ヒフ、 心配シンパイ

三 左の△の所へ適當なる字句を補へ。

(い)身體ノ構造ハ極メテ△△ナルモノナリ。
 (ろ)難を△くることを得。
 (は)御地方は△△の出水にて△△も少からざる由。

三 綴 方

一 次の誤を正せ。

譽・舉ホメ

黒・墨ボク

獨ドク・獨ドク

興キョウ・興キョウ

- (い) 相遺なく候。
 - (は) 昨日御話申すべく候。
 - (ほ) 違チガヒキト思フ。
 - (ろ) 有が度ぞんし候。
 - (に) 色黒キカアル人。
 - (へ) 車へ乗ノリテ行キタルトイフ。
- 二 次の意味にて友人に送る手紙を作れ。
- (い) 一月八日學校で始業式をすましたあとで、學藝會を開いたこと。
- (ろ) 學藝の種類は談話・對話・唱歌の獨唱と合唱・理科の實驗・黑板畫などであつたこと。
- (は) 餘興には手品・詩吟・薩摩琵琶・福引などがあつた。
- (に) 先生も十人ほど出席されて、面白い話をして下さつた。
- (ほ) 終つたのは午後三時で、一同愉快であつた。

第二十四課 試験問題

讀方及び講義

一 次の漢字の讀方と講義を記せ。

調査 綿密 縮圖 打電 強堅 悲憤

豫報 露坐の大佛

二 次の句の解釋をなせ。

興キョウ・興キョウ

蜜ミツ・密ミツ
電デン・雷ライ

- (い) 呼吸作用も興つて力あり。
- (ろ) 頭の骨の堅きは腦を護らんが爲なり。
- (は) 僅に水雷艇三隻に止れり。

三 左の文に讀方を附けよ。

(い) 我は急に其の前路をさへぎりて攻撃せしかば、敵の諸艦皆多大の損害を受け、續いて我が驅逐隊より二回の水雷攻撃を受けて、敵の兩旗艦は遂に沈没し、其の他にも相次いで沈没せるもの多し。

二 書 取

一 左の片假名を漢字に改むべし。

キシヤウダイ メンミツ ヨウセイ エントツ
ザウサなく シウゼン

三 作 文

題 軍艦 (文體は隨意、平假名交となすべし。)

第二十五課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の熟字にかなをつけ解釋をなすべし。

堤防 減退 官廳 快晴 長圍の計
悲歎 志操 强健 判別 擊劍家

圍 團
歎 歎
健 健
建 建

二 次の類似文字の讀方及び意味の相違を示せ。

釘……針 舉……譽 理……埋 喜……善
減……減 賣……買 測……側

三 左の單句・單文の意味を解釋して、附線の文字にふりがなをつけよ。

(い) 問はばや、遠き世々の跡。
(ろ) 轍にあぎとふ鮒の如し。
(は) 一家之を圍みて談笑す。
(に) 鳥居勝商といふ者あり、進み出でて其の使たらんことを請ひ、約していふやう、事の成否は今より豫測すべからず、若し向ひの山にのろしのがるを見れば、幸にして城を出でたりと知れ。三日を過ぎなば、又山上に來りて援軍の消息を示さん」と。信昌大いに喜ぶ。

商 商
使 使
城 城

勵カミツケ 祖カミ 侍カミ 待カミ

著カミ 箸カミ

(ほ) 上毛野形名、蝦夷を討ちて利あらず、兵皆四散せしかば、夜に乗じて城をすて、逃れんとす。形名の妻、夫を勵まして、良人今獨り身を全うして、祖先以來の勇名を辱しめ給ふか。と、自ら劍を帶び、侍女數人と弓を取りて盛に弦を鳴らせり。

(へ) 植物ニハ同化作用トイツテ、炭酸瓦斯ヲ取ツテ、其ノ中ノ炭素ヲ養分ニシテ、酸素ヲ放ツ作用ガアル。若シ炭酸瓦斯ヲ供給スルモノガナケレバ、空氣中ノ炭酸瓦斯ノ分量ガ著シク減ツテ、地球上ノ植物ハ盡ク枯死スベキハズデアル。

一書取

一 次の假名を漢字にてあらはせ。
ナヨキンダイシ ヨキン ゲンセウ ジツレイ

シゼン アイケイ ケイサツシヨチヤウ

二 次の句の附點の假名を漢字に改めよ。

- (い) しさうのかたきは、だんしにもまされり。
- (ろ) そのこそしかりしがごとき。
- (は) みゝにきんぞくせい、のわをはめ。
- (に) ひつえうしよるゐなどとりまとめ。
- (ほ) はのちりはてたふゆこたち。

三綴方

一 次の話語體の句を文語體に改作せよ。

- (い) 城中ではやうやう四五日の糧食を餘してあるばかりであつた。
- (ろ) 雨戸を明けて見ると、明るい月夜である。
- (は) 夕立はさわがしい中にも、勇ましい。

雨アメ 雨アメ

(ニ) 思ひがけない不幸や、驚くやうな事變が何時起つて來ないとも限らない。
 (ホ) 先に君が代の唱歌を歌つたあとで、町長は工事の報告をした。

二 次の題にて文を綴れ。

(イ) 雨と風。 (ロ) 書物。

右の内(ろ)は自分が書物となつたつもりで綴るべし。

第二十六課 試験問題

一 次の熟字を漢字に改めよ。

かくご けんちやう りんせき さくてう
 そんがい てんじやう

二 左の字句の讀方及び講義を問ふ。

碓固 學務委員 敷地總坪數 寄附金

義務教育年限 德行

自若として其の常を失はず。

能く其の處すべき道に處したるなり。

三 次の文章の大意を記せ。但し附圈の文字は讀方を示すべし。

(イ) かの山内一豊の妻が貧苦に居て、夫の一大事を忘れざりしは、戦陣の際に良人の名譽を全うせる形名の妻と、其の徳を同じうすといはん。

(ロ) 昔調伊企灘は新羅と戦ひて新羅の將に捕へらる。其の將伊企灘をして日本に向つて、日本の將我がしりを食へ。と號ばしむ。伊企灘却つて新羅王我がしりを食へ。といひて、幾度責めらるれども改めず、遂に殺されたり。古今勇士

の意氣甚だ相似たらずや。

一 作文

題 勉強は幸福を生む母。

右片假名にて文章體に作れ。但し字數百五十以内とす。

第二十七課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の字句の讀方及び解釋を問ふ。

改築 計畫 舉行 發布以來 就學兒童

増設 堅固 外觀 好成績 巡覽

二 次の句の講義をなせ。

(い) 一慶事トイフベシ。

(ろ) 延長セラレタノデ。

改・攻(カウ) 畫・畫(ゾウ) 固・因(コウ) 延・廷(テイ)

(は) 事によりて相惡みし頃。

(に) 其の勢力にも消長あり。

三 次の文の大意を語れ。

廉・兼(レン) 恐・怒(コウ) 避・僻(ヘキ)

(い) 余は秦王を其の朝に叱したるもの。何ぞ獨り廉將軍を恐れんや。然れども強秦の兵を趙國に加へざるは廉頗と我と二人あるが爲なり。兩虎共に闘へば勢共に生きず。といへり。余の彼を避くるは國家の急を先にして、私のうらみを後にするが爲なり。

(ろ) 太古人口少く人智開けざりし時は、魚鳥を捕へ、果實を採りて食物とせり。人口やうやく増加し、自然に生ずる物のみにては不足を告ぐるに至りて、動物を飼養し、又植物を栽培して、衣食住の材料を得ることを工夫するに至れり。是即ち農業の起原なり。

裁・裁(サイ) 培・倍(ペイ)

果・菓(クワ)

張帳

(は) 郵便局ニテモ銀行ニテモ、金錢ヲ預ケタルモノニハ、其ノ金高ヲ書入レタル通帳ヲ渡ス。此ノ通帳ハ此ノ後金錢ヲ預クル時又ハ引出ス時共ニ必要ナルモノナレバ、大切に保存スベシ

二 書 取

一 次の片假名を漢字に改めよ。

シウタウ ケウジュ ガクレイ ケイガ
クワツドウ ハレツ サイバイ オウヨウ

二 次の漢字を諳書し得るまで練習せよ。

家畜 肥料 糧食 勞る 豚肉 鶏卵
壁 重要 戒め

三 次の字と似よめたる字を知れるだけ書け。

考 畜 大 切 興 書 明

三 綴 方

一 次の題にて文を作れ。但し文體は隨意とす。

(い) 入學試験の模様を知らせる手紙。

(ろ) 中學校(高等女學校)へ入學を勧める手紙。

(例) 今年は幸に尋常科を卒業いたしましたから、中學校へ入學の事を両親に願ひましたら、快く許されましたので、早速日比谷にある府立第一中學校へ願書を出しまして、一昨日と昨日との兩日に互つて、試験をうけました。問題はあまり六つかしくはありませんでしたから、是非合格したいと思ひますが、御承知の通りの平素の成績ではあり、また準備も足りませんから、とてもだめだらうとぞんじます。それに百五十人の募集に對して、志願者が千人以上もあるのですから、よし合格點はあつたにしても、募集人員の中に入ることは覺束ないと思ひます。成績表は明後日で御座いますから、いづれまた御通知申し上げます。

四月三日

菅原收一

等一編 國語科

七一

募 募

東 東

第二十八課 試験問題

一 書 取

一 次の語句を漢文交りに改めよ。

(い) まうしぶんのないせつびである。

(ろ) ひんしついうりやう (は) けんちくしつそ

(に) きやうけんなるくんようのばひつ。

二 讀方及び意義

一 左の字句を解釋せよ。

推舉する 普及發達 落成式 水魚の交

誰か然るべき 學理を應用する

二 次の文章の讀方を示せ。

(い) 世には農業を以ていやしき職業の如く思ふものなきに
あらず。是大なる誤解なり。農業は我等が生活に必要な
材料を作り出す所以にして、國家一日もこれなかるべ
からず。

(ろ) 廉頗之を聞きて、深く其の非をさと、相如の門に至り
て罪を謝し、つひに無二の親交を結べりとぞ。

三 作 文

題 入學試験に不合格なりし人を慰むる文。
右 口語體にて平假名交りに作れ。

第二十九課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の熟字の讀方及び解釋を問ふ。

行方 供御 講話會 耕地整理 餘香
 驛長 恩賜 從事 無限の富 精巧

驛 譯 馭
 精 請 馭

二 次の句の意義を語れ。

(い) 現状を以て満足すべきにあらず。

(ろ) 身に餘る面目をほどこしたり。

(は) 僅かに詩歌に思をよせて。

(に) 勞らなければならぬ。

三 次の文章にかなをつけよ。但し附圈の字は解釋をもなすべし。

(い) 我が國の農業中最も開けざるは牧畜の業なり。是我が國の氣候・風土の牧畜に適せざるにあらず。四面皆海にして、魚介の供給ゆたかに、鳥獸の肉を食すること少く、又衣服の原料も綿・麻・生絲に仰ぎて、家畜の毛に求むること少

牧 馭
 畜 蓄

紫 柴
 片 斤

かりしによる。

(ろ) 筑紫に到りて後は、常に門を閉ちて出づることまれなりしが、片時も君を忘れ奉ること無く、雨の朝、風の夕、見るもの聞くものにつけて都の空のみしたひ居たり。

(は) 今年の競馬はさぞ面白からう。と、祭の當日にはおびただしい見物人が朝早くから宮の境内へつめかけた。やがて五人の騎手は多くの人々に付きそはれ、靜々馬を歩ませて、鳥居の下へ集つて來た。

(に) 同學士は御承知の通り、多年府縣の技師をも務め、學理にも通じ、實地にも明かなる人に候へば、其の講話は定めて、有益な事と存候。

二 書 取

一 左のかなを漢字になほせ。

技 枝
 師 帥

はいでん きやうさう つきそひにん ねだん
しようぶ しゆるる とりかへる なごり

二 次の漢字の誤を正せ。

商業 收穫 牧蓄 舊勳 建築 裁倍
抑ぎ 復雜 胃腹 繁營

三 左の略字を書け。

勳 醫 國 發 參 齡 號

三 綴方

一 次の漢字の語尾の變化を示す短句を作れ。

見 恨 煑 着 落 起 耻

(例)花を見んとす 天氣悪しく月を見ず 新聞を見て 繪を見
る人 敵を見れば 早く見よ

二 次の文を文語體に改作せよ。

紀元節はおほむかし神武天皇が日向の國から御東征な
さつて、大和の長髓彦といふわるものを平らげられ、大和
の畝傍の檀原の宮で、天皇の御位に即かせられた日にあ
たるので、今年(明治四十三年)はちやうど二千五百七十年
目になる。それで此の日は何處の學校でも、式をあげて君
が代の唱歌や「雲にそびゆる。」の唱歌をうたつて、兩陛下の
萬歳を祝つたり、神武天皇の御功績をたたへたりする。

第三十課 試験問題

一 讀講及び書取

- 一 左の漢字に讀み方をつけて意味を解せよ。
貿易 花客 原則 精通 嗜好 變遷
- 二 左の句の解釋をなせ。

- (い) 無限の富を藏したり。
 - (ろ) 千里比隣の今の世は有無互に相通じ。
 - (は) 流行のおもむく所を察せざるべからず。
- 三 次の文章の大意を記せ。
- (い) 富國ト強兵ト相待ツテ始メテ國家ノ盛大ヲ致ス。強兵ヲ以テ知ラレタル我國ハ富國ノ道ヲ講ズルユト今日ノ急務ニシテ、海外貿易ノ發展ヲ圖リ大イニ國富ヲ増殖スルハ商人ノ國家ニ對スル義務ナリ。
- (ろ) 日露の戦役に於ては、露軍は海軍根據地として此の地を死守し、我が軍は苦戦十一箇月にして之を陥れたり。其の後方の山々は皆我が同胞の血をそゞぎし地ならざるはなし。

四 次の假名を漢字になほせ。

ながんづく じゆんさ こんざつ さうち
 せつぞく けいべんてつだう さしき

二 作文

題 東京。

右話語體に作れ。

第三十一課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の熟字の讀方及び意義を問ふ。

連結點	豐富	彫刻	全然	缺乏
壯觀	救濟	結構	眺望	貧賤

二 左の句を解釋せよ。

- (い) 危害を顧みず。
- (ろ) 魚腹に葬らる。

點 點
 豐 豐
 乏 乏
 貧 貧
 危 危

(は) 遠き慮なければ必ず近き憂あり。

(に) 創建以來年尚淺ければ (ほ) 續々相次ぎ引きも切らず。

三 左の文を読み、且つ其の大意を解説せよ。

(い) 引込思案の人は徒に其の結果を思ひわづらひて、優柔不斷其の事業に取掛らざる中に、良好なる時機を失ふこと多し。快活なる精神を以て熱心に其の事業に従事せば、天下何事か成らざるを憂へん。

沿・治テ ハ シ マ
殆・始シ メ ス

ろ) 過ぐる處の沿路、果實、草根を始め、凡そ取つて食ふべきものは始んど餘す所なし。しかも僅かに飢をしのぐは先頭に進める一部に過ぎず。列後に在るものは更に一物をも食ふこと能はず、飢餓刻々にせまる。

麗・曆レ キ ミ ヨ
麗・麓ロ ク ト ヨ

(は) 巴里の市街は壯麗を以て聞ゆ。佛國の長き歴史を飾れる壯大なる建築の數々高く中空にそびゆるのみならず、

人家も多くは六七層にして、町幅も亦之に適へり。シヤンゼリゼーの大通の如きは、世界最美の街路と稱せらる。

悔・悔フ ル コト

(に) 永遠の幸福を望む者は一時の勞苦を忍ぶべし。老後の安樂を願ふ者は若年の辛苦をいとふべからず。少壯有爲の間を徒に遊び暮さば、老いて後悔ゆともかひなかるべし。

印・卵フ タマ ゴ シ
險・儉・檢ケン ケン ケン

(ほ) 然るに印度との交通は長日月を要し、中途の危険亦少からざれば、便利なる航路を開かんことは歐洲人一般の希望なりき。

二 書 取

一 次の平假名を漢字に改めよ。

けんさ　　じゆくれん　　てきだう　　はいだつ
むぼう　　くちくかん　　たんけん

二 次の句を漢字交りになほせ。

(い) ヤジウノサウガニサカレテ。

(ろ) スミ^ムツウゼザルトユロナシ。

(は) リホフニモトヅク。

(に) ヨキヤウニカヘルナレイトス。

三 立心扁(巾)及び手扁(才)の字を各五つづつ擧げよ。

三 綴方

一 次の文を綴るに必要な項目をあげよ。

(い) 花見に朋友を誘ふ手紙。 (ろ) 雑誌を注文する手紙。

二 次の廣告文を作れ。

(い) 近火見舞の禮。

(例) 近火見舞の禮。

昨夜近火の節は早速御駈^{カケ}付け下され御蔭^{カゲ}を以て類焼^{ルキヤウ}を免れ候混雜の

際尊名伺ひ洩れも之れ有るべくと存じ候に付略儀ながら紙上を以て

御禮申上候。 敬具

吳服商柏屋

二月二十五日

瀬川清吉

(屋號氏名は二號活字、他は五號活字とす)

(注意) 廣告文等は各新聞により、一行の字數と、その廣告料などの定め
あれば、文を綴るとき、行數によく注意して簡單にすべし。

第三十二課 試験問題

一 讀講及び書取

一 次の漢字の解釋をなせ。

暴舉 失望 歡迎 勳功 喜捨 聽衆

二 次の句を講義せよ。

(い) 手の舞ひ足の踏む所を知らず。

○廣告文は
なるべく簡
單に綴れ。

(ろ) 次第に其の権力を張らんとせる頃なりき。
(は) 唯神曲に心を奪はる。

三 次の文章の讀方を問ふ。

一日良雄に面會し、反復直言して復仇の事を勸む。良雄一
笑して更に耳を傾けず。喜劍大いに罵つて曰く「主人は死
し主家は亡びたるに、汝家老として仇を報ずるを知らず、
人面獸心とは汝の事なるべし。」といへり。

四 次のかなを漢字に改めよ。

たんけん くんこう ふしぎ せいとん
でんせんびやう こんなん

二 作文

題 誕生日に友達を招く文。

第三十三課 練習問題

一 讀方及び解釋

- 一 次の熟字の讀方と解釋を問ふ。
 範圍 準備 和樂 交際 治績 奪略
 感化 感奮 安眠 敏速
- 二 次の句の意味如何。
 (い) 我當に萬罪を地下に謝すべし。
 (ろ) 一事が萬事。
 (は) 其の例數ふるにいとまあらず。
 (に) 入るをはかつて出づるを制す。
- 三 次の文の大意を問ふ。
 (い) 身分相當の交際は家を保つ上にも必要なり。親類縁者

奪・奮
治・治
速・連

縁・縁
縁・縁
縁・縁

善・喜キヨク

戒・式キョウシキ

はもとより、世間の交際をも外さず、慈善の事業にも應分の資を投ずべく、公共の事業にも後れを取るべからず。

(ろ) 其の後孟子出でて學び、學を卒へずして歸りし時、母たまく、機上にあり。直ちに其の機を斷ち、孟子を戒めて曰く、汝の今學を廢するは我が此の機を斷つが如し。と。

(は) 官位・門地・技術・財産・學問等に於て衆を抜く者は、個人としても自ら高尚なる品格を要するが如く、世界強國の國民たる名譽を負ふものは、國民としても之に相應する品格を備へざるべからず。

二 書 取

一 左のかなを漢字に改めよ。

キヨウケン セキニン トジマリ セイシン
クワンイウ テイユクギクワイ

二 次の漢字に他の漢字を附加して熟字を作れ。

賤 豫 交 溫 樂 益 感

三 綴 方

一 次の句を文語體に改作せよ。

- (い) 相濟まない次第ではないか。
 - (ろ) おごりに流れるのはやさしくて、おごりから儉約に進むのはむづかしい。
 - (は) 争つた (に) 争はう (ほ) 争はない (へ) 争ふだらう。
- 二 次の文を作れ。
- (い) 父の急病のため人を呼ぶ文。

第三十四課 試験問題

一 讀講及び解釋

一 左の假名を漢字に改めよ。

としよくわん せんきよ ちよくせつこくせい

せいぐわん せいすゐ

二 左の字句の解釋をなせ。

輔弼 舉止 繁簡 處理 強制 適任者

發展を期するは一なり 輕侮の念を以て之を迎へ

三 次の文の大意を記せ。但し圈點の文字にかなを附せ。

(い) 未だ其の國情を詳にせず、其の國人と一語を交へずして、早くも其の國民の品格の知らるるものなり。我等五千萬の同胞は常に大帝國の國民たるを思ひ、一言一行の間にも、大國民の品格を高むるの用意あるべきなり。
(ろ) 如何に其の職務に忠實なるも、一般人民の之を助くるなくんば、自治國體の圓滿なる發達は得て望むべからず。

品ニ品
思ニ恩

二 作文

左の題にて平假名交り文を作れ

櫻の花。

第三十五課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の漢字の讀方及び解釋を書け。

親裁 聖旨 互選 協賛 權能 建議

下情上達 安危

二 左の句の意義を問ふ。

(い) 私交上の關係をさしはさむべからず。

(ろ) 人心の作興に務むるが如き。

(は) 文明の利器も運用を全くすること能はず。

私ニ和
器ニ器

(に) 品格を高むる所以なり。

三 次の文にかなをつけ、附線の字は特に解釋を施すべし。

(い) 威力を以て強制し、私利を以て勧誘する等の手段を用ひ、又は之に左右せらるゝが如きは、自治の精神に反すること最も甚だし。

(ろ) 皆、公共心の發動にして、自治の精神の養成に資し、自治團體を助長すべきを以て、地方人民たる者は大いに力を是等の事業に盡すべきなり。

(は) 汽車汽船の中にて、我獨り廣き場處を占領し、旅館にて夜晩く高聲を發して他人の安眠をさまたぐるが如きは、文明國民の爲すべきことにあらず。幼者・不具者の爲に席を與ふるが如きは、個人としても、國民としても、其の心の奥ゆかしきを感じずや。

團・團その

占・古その

幼・幻その

二 書 取

- 一 左の○の所へ適當なる漢字を挿入せよ。
- (い) 今尙○○の絶ゆることなし。
- (ろ) 三度其の居を○せりといふ。
- (は) ○○ノ氣象ヲ發揮ス。
- (に) 一層其の○穫を○加す。
- (ほ) 清○ナル○氣ヲ呼○ス。
- 二 次のかなを漢字になほせ。
- だいげんする くべつ じゆんぎやく ぶゆう
- ゆらい ちせき さうしよく しんぎ

三 綴 方

- 一 左の手紙の返事をつくれ。
- 寒は明けましても尙御寒さは厳しく凌ぎにくう御座い

ますが、皆様には御障りはありませんか。先日友達から承りましたのに、御老母様には御風邪の氣味にておやすみ遊ばされていらつしやるとの事で御座いました。が、昨今は如何でいらつしやいますか。かういふ時節で御さいますから、充分御療養遊ばして、一日も早く御全快になることをいのつて居ります。先は御見舞まで。勿々

二月五日

小西 てい

山本まさ子様

第三十六課 試験問題

一 講義及び書取

- 一 左の意義を記せ。
- 統率 粗暴 理非 輕浮 節操 結局

鳥合の衆 不覺の名を取る 心得を缺ける軍人

二 左の文の讀方を問ふ。但し線を附したる處は特に摘書して講義をなせ。

(い) 十分に信義を盡さんと思はゞ、豫め事の成否を察し、成し得べからざるものは引受くべからず。初より事の順逆、理非を熟考して、小なき信義を立てんが爲に、大なる順逆を誤り、又は公道の理非に踏迷ふが如きこと有るべからず。

(ろ) 心誠ならざれば、如何なる言行も表面の裝飾に過ぎざれば、何の用にか立たん。

三 次のかなを漢字に改むべし。

ケウクン	ハツテン	ホカク	センサバンベツ
パウギヨ	ウンユ	ムジンザウ	

二 作文

題 舊師に中學校(高等女學校)への入學を通知する手紙。

第三十七課 練習問題

一 讀方及び解釋

一 次の熟字の解釋を問ふ。

講話會 普通 接近 行在所 現象

盡力 特質 休養 訪問 配合

二 第三十五・六十二課の中にて、讀方二つ以上知れる字を抽出して假名を附せよ。

三 左の文意を讀みて、附線の字を講義せよ。

(い) 春は島山霞に包まれて眠るが如く、夏は山海皆緑にして目覺むるばかりあざやかなり。秋の山は紅葉の綿を織

質||須
休:体
訪:防

織:識・職

岸:崖

り、冬の木は白雪の綿を重ぬ。兩岸及び島々、見渡す限り田園よく開けて、毛氈を敷けるが如く、白壁の民家其の間に點在す。

(ろ) 思へば今より六十年以前には、我が國に一哩の鐵道も、一隻の汽船もなかりしなり。今や全國鐵道の延長五千哩に達し、又支那・朝鮮はおろか、印度・南洋より亞米利加・歐羅巴の航路をも開くに至れり。國運發展の速なること實に驚くにたへたり。

令:今
亦:赤

(は) 通報艦ハ主トシテ艦隊ノ命令・報告等ヲ傳達シ、或ハ敵ノ軍艦又ハ沿海ノ情勢ヲサグリテ、我が艦隊ニ報告ス。故ニ艦體甚ダ輕ク、速度亦大ナリ。

三 左の名組の文字の讀方及意義を比較せよ。
扱:汲
汲:汲
防:妨
妨:妨
穀:穀
穀:穀
綿:綿
線:線
錦:錦

二 書 取

謹・僅キンカウ
懐・壞クワイ

- 一 次のかなに漢字をあてはめよ。
じつさい おうせつ こくうん あんばい
けいさい しゃしんでふ たんせい もはん
- 二 次の字を練習して後に暗書せよ。
間隔カンカク 聲譽セイヨ 謹嚴キンガン 維新イシン 保護ホゴ
特別トクベツ 擊沈キキチン 追懐ツイクワイ 優美ユウビ 製造サイゾウ
懐・壞クワイ 追懐ツイクワイ 優美ユウビ 製造サイゾウ 複雜フツザツ
- 三 左の漢字に似た文字を挙げよ。
感 科 綠 怒 管 某

三 綴 方

- 一 左の届書を認めよ。
(い) 遅刻届チコクキョウ (ろ) 遺失イシツ届キョウ
- 二 左の要項により受取書を作れ。

神・紳

- (い) 書状 一通。
- (ろ) 宛名は神田區役所。
- (は) 日附は三月三日。
- (に) 差出人は自分の名。

第三十八課 試験問題

一 書取及び讀講

- 一 次のかなを漢字にて記せ。
てきたう はいたつ はつてん しょうめい
せうたいじやう こんだて
- 二 次の漢字の讀方と意味を假名にて書け。
訪問 隨意 需要と供給 急行列車 工夫
- 三 次の句の意義を問ふ。
(い) 他人の歡心を買はんとして。
(ろ) 鹽・醬油を買ふに餘あり。

(は) 私事は軽く公事は重し。

四 左の文章に読みかたをふりがなせよ。
倫敦の市街は繁盛を以て名高し。市の中央最も繁華なる處は道幅狭く、車馬街上に満ちて往來頗る困難なり。されど十字街頭に立てる巡查の一擧手の合圖に、通行の人は行くも止るも唯其の命に従ひて、少しも混雜を生ずることなし。

二 作文

題 苦樂

右話語體にて綴れ。

第二編 算術科

整數及び小數の取扱

第一課 加減乗除(練習問題)

一 加法(寄せ算)

一 $96372 + 1073516 + 489,$

二 $5.93 + 0.708 + 154.2,$

三 $20103.040507 + 0.006 + 1685,$

四 九分七厘、三箇四毛、五千七箇二分八毛の和。

二 減法(引き算)

一 $1569430007 - 149631968,$

二 $37.089 - 8.2357,$

加法の結果を和・計・合計・總計・高等といふ
小數の加減は小數點をそろへて行ふべし。
減法の結果を差・殘等といふ。

りたり。依りて更に全長の九分の二を切りたりと、然らば現に幾尺残れるか。但し一メートルは三尺三寸なり。

第三課 四則雜題(練習問題)

一 四則式題

- 一 $7.04 \times 3 - 2.13 \times 8 + 2.07,$
- 二 $(532 - 469 + 54) \times 4 + 44 \div 8, .$
- 三 $5477.7 \div 93 - (24 + 4.65) \times 2 + 4.5,$
- 四 $69 + 299 \div 23 - 14 \times 3,$
 $(69 + 299) \div 23 - 14 \times 3,$

右二式の答を比較して、その差を求めよ。

二 四則應用問題

- 一 大小二數あり。其の差八十九にして、大なる數は二百四

乗除は加減より先に算すべし。括弧内のものは先に算すべし。

比較

十六なりといふ。小なる數は幾何。

- 二 大小二數あり。其の差十七にして、その和は百三十三なりといふ。各幾何なるか。

(解) 大小の和より差だけ減ずれば、その残りは小數の二倍となる。故に之を二除して小數を得。 $(133 - 17) \div 2 = 58$ 小。
又大小の和に小數の不足、即ち十七を加ふれば、その和は大數の二倍となる。故に前の理により $(133 + 17) \div 2 = 75$ 大。

- 三 甲乙の二人あり。七十四里の道を相向つて進みしに、出會ひしまでには、甲は乙より十六里多く歩みしと、各の行程何程。

- 四 兄弟二人にて讀みし書物の枚數は、四時間に八十四枚にて、弟は兄に劣ること十二枚なり。各平均一時間に何枚づつ讀みし割合なるか。

平均

五 親子二人或る工事に雇はれて賃錢三圓七十五錢を得たり。而して親は子の四倍の働きたりとせば、各の稼ぎ高何程つつか。

六 金六十圓を以て反物四十一反を買ひしに、金五十五錢残り。然らば平均一反の價何程。

七 某數あり。十七を減じて四倍し、之を八にて除し、尙十三を減ずれば、零となると云ふ。某數何程。

八 日給四十五錢の職工あり。若し夜業を爲さば、更に十五錢の増を得る約束にて、十月一ヶ月に得たる總計十五圓なりしと。夜業せし日數を問ふ。

九 金一圓を以て雞卵三十箇を買はんとせしが、五錢不足なりしゆゑ、二十五個を買ひたり。拂ふべき代金何程。

一〇 三人の所持金七十五圓にて、甲は乙より十三圓多く、

所持金

鶏卵

丙は乙より八圓多く所持すといふ。各何程なるか。

(解) 甲丙共に乙より多き故に、兩人の多きだけの和を合計より引けば乙の所持金の三倍が残る。甲も丙も乙と同じ高になる故依りて $(75 + 13 + 5) \div 3 = 18$ 甲 $18 + 13 = 31$ 丙 $18 + 8 = 26$ 甲三十一圓、乙十八圓、丙二十六圓

一一 三種の果物あり。柿は林檎より三十五個多く、林檎は梨より二十個少く、合計百七十二個あり。各幾個なるか。

第四課 雜題(試験問題)

一 或人一里を行くに四十五分を費しては、十分間つつ休む。かくして十二里の地へつくまでに何時何分を要するか。

二 $\frac{1}{3} + \frac{1}{6} - 0.5$ を最簡にせよ。
 $\frac{16}{85} \times 2.125 \times \frac{1}{4}$

三 $94.505 \div 6.25 \times 0.008$

四 大工十六人で八十日間に爲すべき仕事を請負ひ、三十

第一問大いに注意を要す

豫定きまへもつて

物の長さを測るには曲尺を用ふれども布帛を測るには鯨尺を用ふる習慣あり。

五日間從事せし時、豫定より五日間早く仕上げねばならぬこととなりたり。然る時は大工幾人を増せば可なるか。
五 水槽あり。甲管より水を注げば四時間、乙管よりすれば六時間にて満水すといふ。今若し甲管にて半分を充たしたる時、乙管を開かば始めより幾時間にて満つるか。

第五課 長さ・面積・體積・柁目(練習問題)

一 長さ

(例) (1) 曲尺三尺を鯨尺になほせ。

$$0.8 \times 3 = 2.4$$

或は $3 \div 1.25 = 2.4$ 二四尺

(2) 鯨尺四尺は曲尺の幾尺にあたるか。

$$1.25 \times 4 = 5$$

或は $4 \div 0.8 = 5$ 五尺

一 鯨尺の一丈二尺・八尺五寸・四尺四寸を曲尺に直せ。

一般に何尺といふときは曲尺と知るべし。

圓の周圍は直徑に圓周率三・一四一五九を掛ければよい。一回轉は

長さの數と幅の數との積は面積の數である。

一平方尺と一平方寸とを區別せよ

- 二 曲尺の八尺・七尺五寸・二丈を鯨尺になほせ。
- 三 一丈二尺の紐を三つに切るに、その中の一筋は最も短きものより七寸長く、最も長きものより一尺短し。各幾尺か。
- 四 直徑五尺ある圓の周圍何程か。
- 五 一回轉に七・八五尺進む車輪の直徑は何程。
- 六 直徑四尺五寸の圓形なるものと、一邊四尺五寸なる正方形のテートルあり之を取り巻く布の長さの差何程。

二 面積

- 一 一邊の長さ三尺の正方形の面積は幾平方尺なるか。
- 二 長さ一丈二尺、幅八尺なる矩形の面積は幾平方尺か。
- 三 縦一尺八寸、横一尺四寸の矩形は幾平方寸なるか。
- 四 三平方尺と三尺平方との差を求めよ。
- 五 五平方尺は幾平方寸か、又幾平方分か。

圓の面積は $1\text{平方尺} = 100\text{平方寸} = 10000\text{平方分}$
 半徑の自乗を
 圓周率を
 かければよ
 い

體積 = 縦 × 横 × 高
 容積 $1\text{立方尺} = 1000\text{立方寸} = 1000000\text{立方分}$

- 六 一千五百六十平方分を平方寸平方尺になほせ。
- 七 面積八平方尺、縦三尺二寸の紙あり。横は何寸か。
- 八 直徑六尺なる圓の面積は何程か。
- 九 箱の各稜の長さを測りしに、縦一尺二寸、横八寸、高五寸ありたり。此の箱板の表面積何程か。但し蓋を除く。

三 體積

- 一 五六立方尺を立方寸及び立方分になほせ。
- 二 七二立方寸を立方尺及び立方分に改めよ。
- 三 箱の内法縦二尺五寸、横一尺六寸にして、高さ一尺なるものあり。容積何程。
- 四 稜の長さ一尺五寸なる立方體あり。體積何程か。
- 五 體積三五一立方尺ありて、縦一尺八寸、横一尺五寸なる直方體あり。高さ何尺か。

四 枳目

1石 = 10斗
 1斗 = 10升
 1升 = 10合
 1合 = 10勺
 一升枳は縦
 横各四寸九
 分深さ二寸
 七分の内法
 ありて、容
 積は六四分
 二七立方分
 あり。
 一立方尺と
 一尺立方と
 を區別せよ

- 一 内法、縦・横・深さ共に一升枳の四倍なる箱あり。その容積は何程か。
- 二 三五六五四・八五立方分は枳目何程にあたるか。
- 三 六升入の箱にて、縦九寸八分、横八寸一分なるあり。深さ何程なるか。
- 四 二尺立方の容器あり。何升を入れ得べきか。
- 五 四斗五升俵二十八俵あり。之を三十俵とするには、一俵何升入とすべきか。

第六課 雜 題(試驗問題)

- 一 縦を一升枳の三倍とし、横を二倍、深さを四倍とすれば容積何升となるか。

容量

- 二 $0.63248 \div 0.59 \times 0.0485,$
 - 三 $(1\frac{3}{4} - 1\frac{1}{9}) \div (\frac{13}{36} + 2\frac{4}{9} \times \frac{5}{8}) + 2\frac{7}{17},$
 - 四 三里十四町二十四間を里の單名數になほせ。
 - 五 一錢銅貨と五厘銅貨を取交ぜ、六十四個にて五十錢の拂をなしたりと。各銅貨の數及び金高何程つつなるか。
 - 六 三人あり。二人づつにて或荷物を持ちて、二十七町の道を行かんとす。各何町つつ持つべきか。
- 右二、三は運算を示し、その他は式と答を記せ。

第七課 目方貨幣里程(練習問題)

一 目方

- 一 三五斤は何匁なるか。
- 二 鐵道乗客三等は三十斤までの手荷物は無賃なり。何貫

1貫 = 1000匁
 1匁 = 10分
 1分 = 10厘
 1斤 = 160匁

なるか。

- 三 水一升の目方は四八〇匁なり。一斗六升の目方何程か。
- 四 縦横共に四尺二寸、深一尺四寸七分なる箱に満てる水の目方何程か。
- 五 封書の郵便料四匁又は其の端數毎に三錢なり。八匁七分の手紙は何程の郵便料を要するか。
- 六 新聞紙の郵便料は二十匁又はその端數毎に五厘なり。六十五匁三分ある新聞紙の郵便料は何程か。
- 七 百匁二十四錢の豚肉を十五錢買はば何匁か。

二 貨幣

- 一 五錢白銅貨五十箇の代りに二錢銅貨を以てせんとしたるに十八錢不足なりしと、二錢銅貨の數何程。
- 二 金一匁の直段を五圓とすれば、金五匁四分の價何程か。

封書

$$\begin{array}{r} 0.1025^m \\ \times 36 \\ \hline 6150 \\ 3075 \\ \hline 3.6900^m \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 0.69^m \\ \times 60 \\ \hline 41.40^m \end{array}$$

$$\begin{array}{r} 0.4^m \\ \times 6 \\ \hline 2.4 \end{array}$$

答三町四十一間二四尺

- (1) 八五間 (2) 〇六二五里 (3) 〇四五町 (4) 一三八町 (5) 〇一五里

第八課 雜 題(試驗問題)

一 甲乙二人にて金十五圓四十八錢を有せり。今甲より乙に四圓二十八錢を與ふれば、この所持金は甲の三倍になるといふ。甲乙各初めの所持金何程なるか。

二 甲は一日に十二里、乙は一日に十里の速さを以て、共に同じ方向に出發せり。然るに二日目の朝に至りて、甲は忘れ者に氣が付きしたため、後へ引き返して更に乙を追ふ時は、幾日にして追ひつくか。

一哩は十四町四十五間なり。
糧食あり

- 三 $(2.194142 - 2.1659) \div (2.1719 + 3.0581)$
- 四 五十九里を哩數に直せ。
- 五 $(5\frac{1}{6} + 2\frac{4}{9}) + 10\frac{1}{2} \div 2\frac{4}{5} \times (4\frac{17}{20} - 1.25)$
- 六 三千人の兵士一年三ヶ月を支ふる糧食ありたるに、俄に五百人は他の方面へ行くこととなれり。然る時は初めの豫定より何ヶ月多く支へらるるか。
- 七 金七十五圓を年利一割六分にて九ヶ月間貸さば、利息何程となるか。

第九課 里程(加減乗除)地積(通)

法命法 (練習問題)

一 里 程(加減乗除)

一 次の加法をなせ。

(例)

3 ³	17 ¹	5	4 ⁴
+2	25	54	5
5	36	42	54
+1	36	+1	6
6	6	55	3

答六里六町五十五間三尺

(1) 1¹2⁴3⁵4⁴ + 3⁴1⁷2⁹3¹

二 次の各數の差を求めよ。

(例)

9 ¹	13 ¹	34 ¹	1 ¹
-6	27	23	3
2	22	10	4

答二里二十二町十間四尺

(1) 2⁴1⁵1⁶2⁹ - 1¹1²5¹5¹

三 次の積を求めよ。

(例) 2¹1⁶1⁹2² × 6

2 ²	16 ¹	19 ¹	2 ²
×	12	96	114
	+2	+1	+2
	14	36	97
	72	60	116
	25	60	60
		0	12
			6

答十四里二十五町五十六間

(1) 5¹2⁸2⁷2⁷4¹ × 8

四 次の割り算をなせ。

(例)

6	26	23	4
7) 47 ¹	4 ¹	45 ¹	4 ¹
42	+180	+120	+24
5	184	165	28
× 36	14	14	28
30	44	25	0
15	42	21	
180	2	4	
	× 60	× 6	
	120	24	

答六里二十六町二十三間四尺

(1) 14¹20¹ + 12 (2) 5¹10¹43¹4¹ + 2

五 次の商を求めよ。

(1) 9¹3⁵2⁴ + 1¹8¹5⁵3¹

(2) 15⁴8¹ + 12¹30¹40¹

二 地積(通法命法)

一 左の數を單名數に改むべし。

第二編 算術科

同名數の除
法は、兩數
を單名數に
直して、割
るに、例を
示す。

1町=10段
1段=10畝
1畝=30步
1步=1坪
1坪=10合

地積の取扱
も里程に準
ず。

- (1) 18町6段3畝を畝及び歩に。
 (2) 156町3段7段16歩を歩に。
 二 次の単名敷を諸等敷に直せ。
 (1) 896畝 (2) 21560歩
 (3) 11296.5歩
 三 次の名敷を各その括弧内の名敷に改めよ。
 (1) 7段3畝(町) (2) 2段4畝18歩(畝)
 (3) 1町6段4畝24歩(段)
 四 次の敷を諸等敷に改めよ。
 (1) 12.49町 (2) 1.6畝
 (2) 34.8畝

第十課 雜 題(試験問題)

- 一 一町半の間へ、六間について五本の割で杉を植うると
 きは、總計幾本の杉を要するか。
 二 $(\frac{5^3}{8} - 2\frac{1}{6}) + 1\frac{1}{8} \times \frac{2}{3} \div \frac{1}{8}$
 三 三人の職工あり。或る工事をなして賃銀六十二圓四十
 錢を得たり。之を三人の力及び働いた日敷の割合に分たん
 とするに、その力、甲は五、乙は四、丙は三の比にして、甲二十五
 日、乙四十日、丙三十五日働きたりといふ。然らば各の所得何
 程づつとなるか。
 四 池の周圍を一周するに、甲は十二分を要し、乙は十六分
 を要す。今兩人同時に同方向に廻る時は、再び兩人同時に
 發點に立つは何分の後なるか。
 五 ○八七五里と九一五〇尺と何れが長きか。間敷を以て
 示せ。

所得

右一、二、五は運算を示せ。三、四は式と答とを記せ。

第十一課 地積(加減乗除面積)(練習問題)

一 加減乗除

一 左の計算をなせ。

- (1) 1町3段2畝+5畝19歩+2段7畝25歩+1町3畝20歩
- (2) 2町4段7畝16歩+4町9畝23歩+18町6畝8畝17歩
- (3) 1町3畝-5畝3畝8歩
- (4) 3町4段6畝21歩-2町8畝8畝24歩
- (5) 7段6畝15歩×13

二 面積

一 次の面積を求めよ。

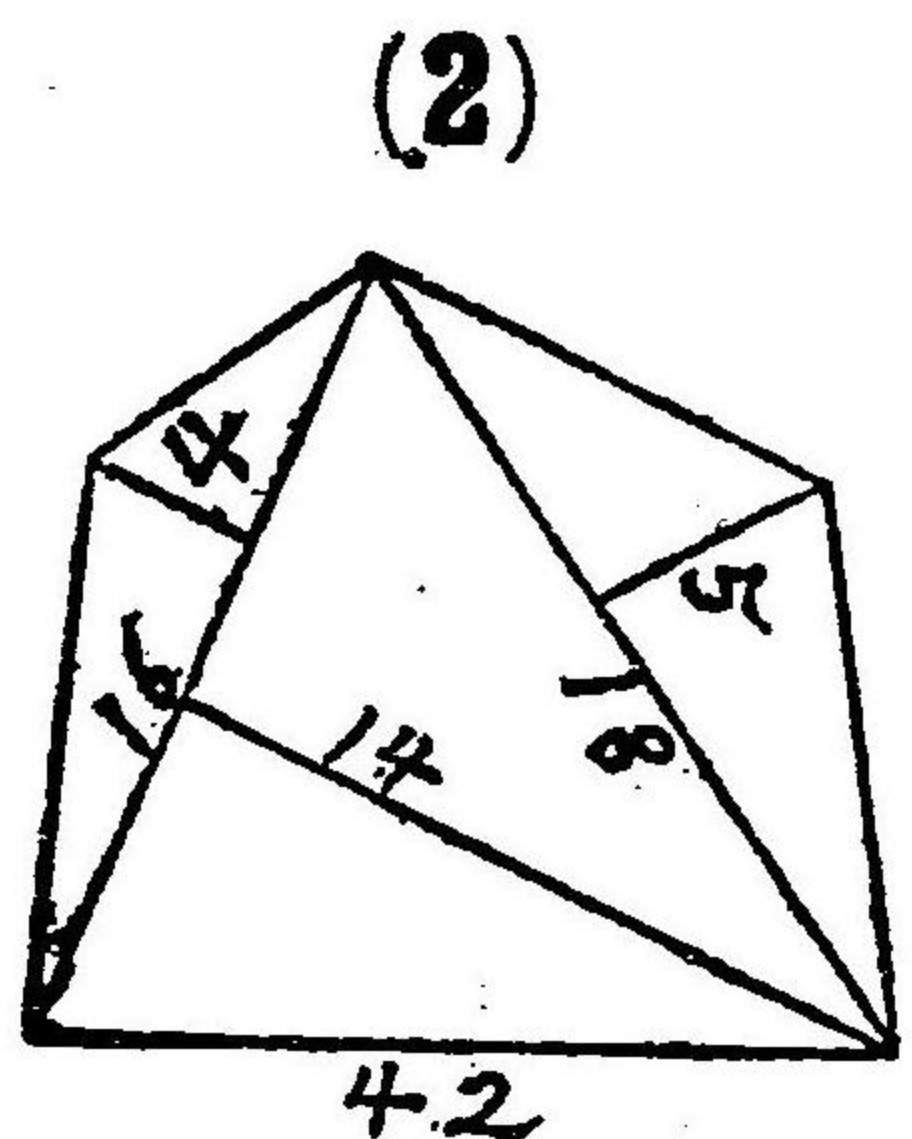
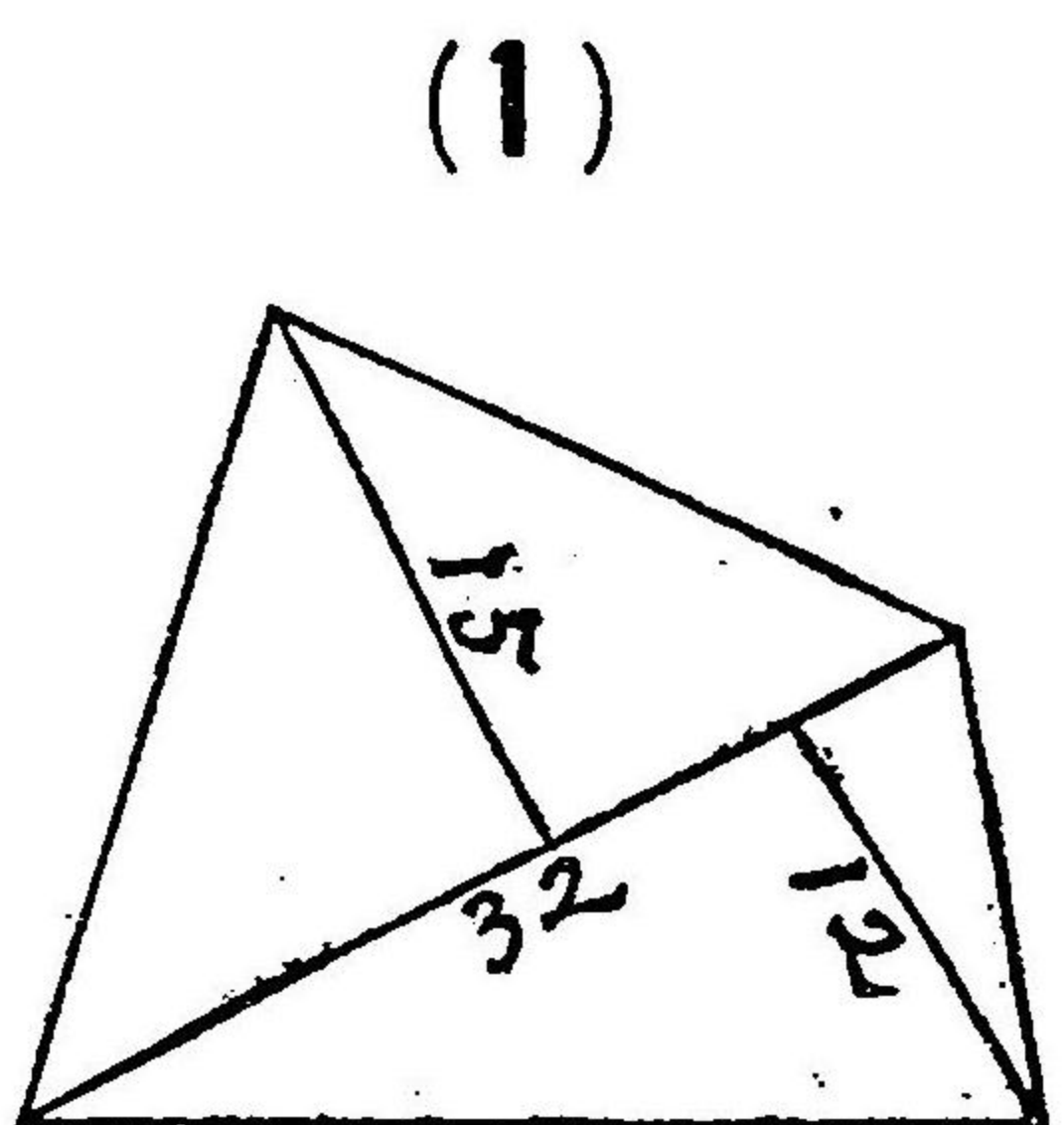
- (1) 正方形一邊の長さ下の如き地。(い)二五・五間、(ろ)三町。

計算
里程に準じて行へ。

三角形の面積は底と高さの積を二分する。分するの積を二分する。

多角形の面積は各部の面積を三角の形と各角の形をそれぞれ加しよる。

二 次の如き地の面積を求めよ。



数字は各部の底、高の間敷を示す。

三 半径五間ある圓池の面積何程か。

三 時間

一 左の計算をなせ。

- (1) 5時18分、2時3時35分40秒、1日10時40分を秒に直せ。
- (2) 12時38分24秒を時に、9日15時36分を日に直せ。

1日=24時=1440分
1時=60分
1分=60秒
1週=7日

(3) 8260カ、357684カを諸等數になほせ。

二 次の計算をなせ。

(1) 3日18時37分45秒 + 20日30分50秒 + 4日13時42分15秒

(2) 7日9時27分24秒 - 5日16時52分47秒

(3) 1日13時46分25秒 × 18

三 午前六時二十五分に起きて、午後九時三十八分に床に就きたり。此の間幾時間なるか。

四 一ヶ月の家賃十三圓五十錢の家を、六月十三日より借り入るれば、當月分の家賃何程。但し家賃は日割とす。

五 今年の天長節は木曜日なり。來年は何曜日にあたるか。

六 絹布一尺を織るに三十二分かかるとすれば、午前八時三十二分から午後七時四十分までに何尺織るか。但し晝飯

休憩

十三日は既に借り入れの日數なることに注意せよ。

第十二課 雜題(試驗問題)

漕力

一 縦三十七間、横二十四間の地に直徑十間の圓形の池を掘り、其の残りを畑となさんとす。畑地の段別何程なるか。

二 河流二十二里半のところを上下するに、上りは十五時間、下りは五時間を要するといふ。然らば一時間流れの速力及び漕力何程なるか。

三 或人初めに所持金の二分の一を費し、次にまた残りの三分一を費せしに、なほ殘金二圓七十四錢ありたりといふ。此の人初めの所持金、何程。

四 男三人の力と女五人の力と相等しきとき、男十六人にて二十八日要する仕事を、男八人女十人にてなさば、前の日と幾日の相違を以て出來上るか。

五 次の式の値を求めよ。運算を示せ。

$$\frac{2\frac{1}{7} - \frac{2}{3} \times (0.5 + \frac{1}{7})}{\frac{1}{2} - \frac{1}{8} \div 0.4}$$

六 左の数の最大公約数を求めよ。運算をも示すべし。

989 1173 391

第十三課

メートル(米突)リットル

グラム(練習問題)

一 長さ

一 次の名数を尺寸分に直せ。

4米 2.5米 18米 5釐

二 音の空气中を傳はる速さを毎秒三四〇米とすれば、電光を見て七秒の後に聞えし雷鳴は何町何間の距離なるか。

電光の距離をメートルで表すとき
 1メートル(米) = 3.3尺
 1キロメートル(杆) = 1000メートル
 1センチメートル(釐) = 0.01メートル
 1ミリメートル(耗) = 0.001メートル

三 富士山の高さは一二四六八尺なり。何米にあたるか。

四 次の数を括弧内の名数に改めよ。

19²8⁴(米) 1331²(米) 9²9²(釐)

五 縦三十米、横二十五米の地の周圍に垣を造らんとするに、一間につき費用七十六錢を要するとせば、總費用何程。

六 一里一哩(約十四町四十五間)・一海里(約十七町)は各幾斤にあたるか。

二 面積

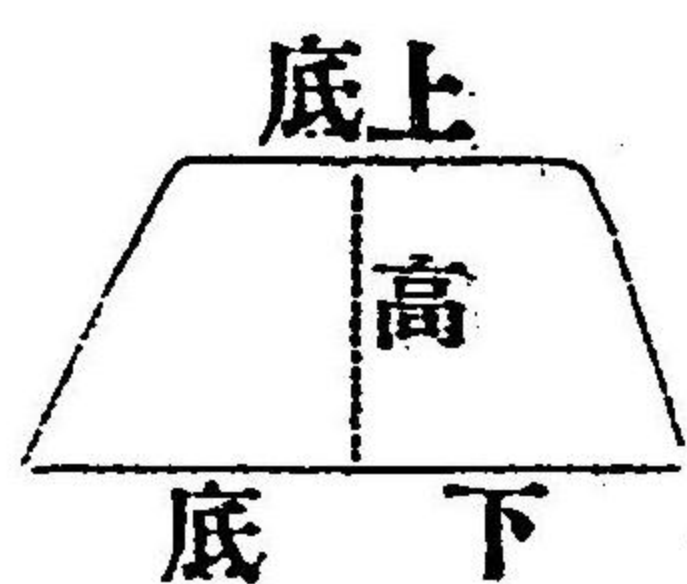
一 次の数を括弧内の名数になほせ。

三平方米(平方糎) 五平方糎(平方米、平方耗)

二 一畝平方の地を段畝歩になほせ。

三 縦四十四間、横二十七間半の地は幾平方米あるか。

四 上底三糎、下底七糎、高さ六糎の梯形の板の面積は何程



梯形の面積は上底と下底の長さの和に高さの二乗を掛けてわけるべし。

柱の底面積は高さへ積ばよすれ

$$\text{球の體積} = \frac{\text{半徑}^3 \times 3.14 \times 4}{3}$$

1リットル(立)=10糧立方

なるか。

三 體積

- 一 稜の長さ一六・五尺の立方體と、稜の長さ四米の立方體との差は幾立方米なるか。
- 二 長さ十二糧、幅八糧、高さ六十四糧の柱の體積何程か。
- 三 直徑五〇耗、高さ二〇〇耗の圓柱の體積は何程か。
- 四 直徑八糧なるゴム球の體積は何程なるか。

四 リットル

- 一 次の容積をリットルに直せ。
16000立方糧 2.58立方米 1540立方糧
- 二 一立は何合何勺にあたるか。
- 三 一升は幾立にあたるか。
- 四 内法縦十五糧、横十二糧、深十糧の箱は幾立入なるか。

五 内法縦二十糧、横八糧にて五立入にするには深さを幾

糧にすべきか。

五 グラム

- 一 次の目方を匁に直せ。
一二五 二五二五 〇・七五
- 二 次の目方を括弧内の名數に直せ。
八匁(瓦) 〇・四匁(瓦) 二四貫(斤)
- 三 七匁の物は小包郵便となすことを得るか。但し小包郵便は一貫六百匁までとす。
- 四 一合の水は幾グラムなるか。
- 五 二人の學生あり。その體重甲は一三・八貫にして、乙は五二・五匁なりと、何れが何匁重きか。

15グラム(瓦)=4匁
 15キログラム(斤)=4貫
 1キログラム=1000グラム
 1センチグラム(厘)=0.01グラム
 1ミリグラム(毫)=0.001グラム

第十四課 雜題(試驗問題)

- 一 兄弟三人あり。其の年齢、長子と次子との和は四十一、次子と末子との和は二十八、長子と末子との和は三十三なりと、各の年齢何程なるか。
- 二 大樹の太さを測らんとして、麻繩を三つに折りて巻きしに三尺餘りたり。次に四つ折りにして巻きつけしに過不足なかりしと。その樹の周圍及び繩の長さ何程。
- 三
$$\frac{2\frac{1}{2} + 3\frac{1}{2} \times \frac{1}{4} - 1\frac{4}{5} \div 2\frac{7}{10}}$$
- 四 縦九分九厘、横一寸三分二厘にて、深さ一寸六分五厘の容器には幾リツトルはいるか。但し一リツトルは一〇糶平方とす。
- 五 八拾錢の仕入直段なる品に二割増の定價を附し、之を

賣るとき、定價の二割引に賣らば損益何程。

- 六 一晝夜に三分進む時計あり。之を今日正午に正時に合せおかば、明後日の午後八時の時、此の進む時計は何時何分をさすべきか。

右の内一、二、三は運算を示し、四、五は式と答を記すべし。

第十五課 外國度量衡(練習問題)

一 長さ

- 一 大人のシャツは二ヤールにて仕立てらるといふ。何尺何寸にあたるか。

(注意) 洋物は曲尺か時指にて多くはかる。

- 二 一マイルは八〇鎖にして、即ち一七六〇碼なり。一鎖は幾碼なるか。

1ヤード(碼)=3.01752尺
 1ヤード = 3フイート(呎)
 1フイート = 12インチ(吋)
 1マイル(哩)=1760碼=5280呎
 1マイル = 80チェーン(鎖)=14^呎45^吋1^尺即約14^呎45^吋=0.4098^哩
 1海里(浬)=16.975^呎即約17^呎

ヤードをま
いたふ。
ヤードと

1ポンド(封度)=120.96匁
1ポンド=16オンス(匁)
1オンス=7.56匁
1ト(噸)=2240ポンド
1ト=270.95貫

三 午前六時に發したる汽車、午後一時半に至りて、一四三哩三五鎖距りたる地に着したり。一時間平均幾哩なるか。

二 目 方

- 一 一足二十四匁の靴下を編むに毛糸九オンス半にて何足造り得るか。
- 二 五百匁は幾匁にあたるか。
- 三 一立の水は幾ポンドあるか。
- 四 六千斤の石炭あり之を噸にて計算すれば、何程となるか。

三 雜 題

- 一 時計の兩針四時と五時の間に、相重なるは何分の時なるか。

$20 \times 60 \div (60 - 5) = 21 \dots 49$

(解) 時計の一時間は六十分割に刻みあり、長針が六十分割進む間に、短針は五分割進む、即ち長針六十秒割一分進む間に短針五秒割進む割合である。故に一分に就て長針は短針より五十五秒割多く進む。此の差を以て短針既に二十分割先にあるを追ふのであるから、二十分割を秒割に直したるものを、此の差で割れば追いつくまでに何分割を要するかを知る事が出来る。

分數を學びし後に於てはまた別の方法あり後に解くべし

相反すれば
三分割と
なり、直
となれば
五分割と
なる。十
時間より
直角となる
こと、注意
すべし。

- 二 時計の兩針八時と、九時の間で相重なるは何分の時か。
- 三 時計の兩針十一時と、十二時の間で相反するは何分か。
- 四 時計の兩針六時と、七時の間で直角となるは何分か。
- 五 一晝夜に六分つつ進む時計あり。此の時計を今日正午に合はせ置かば、明日此の時計の午後六時は正時の何時か。

$\{24 \times (24 + 6) \div 24\} - 24 = 5 \dots 25 \dots 32$

(解) 正時が二四時間進む間に、此の時計は二四時六分進む。故に今日正午から明日午後六時迄此の時計が三〇時進む間に正時計が何時進むか

を計り、二十四時を減ずれば正時の指す時を知ることを得。

六 一晝夜に八分進む時計を、今日正午に正時に合すれば、明朝此の時計が八時を指す時、正時は如何。

七 十四町四十五間ある道路へ十五間おきに櫻を植ゑんとす。兩側にて幾本を要するか。

$$(14 \times 45 \div 15 + 1) \times 2 = 160$$

(解) 先づ十四町四十五間へ十五間おきにすれば幾本いるかを見て、然る後最後の端の一本を加へ兩側である故二倍するのである。

八 周圍四十五間の池の周に五間毎に柳を植うれば、幾本を要するか。

九 橋の兩側の電燈五十基ありて、其の間隔二間なり。橋の長さ何程。

周圍に植うるものと否らざるものとの差異を考へよ。間隔なり。

第十六課 雜 題(試驗問題)

一 一邊一尺五寸六分なる正方形の輪廓の中へ、一寸二分おきに縦横に罫を引かんとす。幾本引くべきか。

二 $87,007 \div 98.4$ 小數第三位までを求めよ。

三 某數あり。之を一個十五分の十一にて除し、八分の五を加へ、次に二十一分の十六倍して、十二分の七を減ずれば、結果は三十六分の十九になるといふ。某數は何程なるか。

(右式及び運算をも示せ。)

四 若干枚の紙を兒童に分たんとするに、六枚つつ與ふれば六枚残り、七枚つつ與ふれば三枚不足すと、紙數及び兒童數各何程か。

五 速力一時間に二一哩の汽車と一八ノットの軍艦と、何れが何町多きか。但し一哩は一七町、一哩は一四町四五間とす。

一ノットとは船が一海里を行く速さをいふ。

るは、分母を
の分母とせんと
母とせんと除
する数を掛
し、その商
を分子に掛
けて分子と
する分子であ
る。

- 九十間あり。(式・答及び解説を要す。)
- 二 $18928 \div 328 - 87 \times 5.46$
- 三 $(\frac{3}{4} + 1\frac{5}{7}) \times \frac{3}{23} \div (3\frac{1}{11} - 1\frac{5}{22})$
(一と三は運算の順序を示すべし。)
- 四 定價一反四圓五十錢の反物二反を定價の六分引にて
買ひ、五圓紙幣二枚を出さばつり錢何程。
- 五 或人三千五百圓を三子に分つに、次子には末子の二倍、
長子には次子の二倍を與へたりと、各の所得何程。
- 六 目方七匁八分ある封書を郵便に出すときは郵便料何
程を出すべきか。

第十九課 約分・通分・加減乗除(練習問題)

一 約分

約分は分子
と分母とを
同じ数にて
割ればよい

一 次の分數を約分せよ。(又既約分數とせよ。)

$$\frac{24}{36} \quad \frac{56}{84} \quad \frac{144}{156}$$

二 通分

一 次の各組の分數を通分せよ。

$$(\frac{5}{8}, \frac{1}{6}) \quad (\frac{7}{18}, \frac{4}{15}, \frac{5}{12})$$

三 加法・減法

一 次の加法を行へ。

$$\frac{1}{2} + \frac{1}{3}, \quad \frac{1}{4} + \frac{1}{9} + \frac{3}{8}, \quad 3\frac{2}{5} + 9 + \frac{14}{15}$$

二 次の引算をなせ。

$$\frac{3}{4} - \frac{1}{6}, \quad \frac{7}{15} - \frac{7}{20}, \quad 3\frac{13}{30} + 2\frac{17}{45}$$

四 乗法・除法

一 次の積を求めよ。

整数は分子
に乘ずべし

異分母は同
分母として
加法を行ふ
のである。

通分するに
は各分母の
最小公倍数
を求めて公
分母とする
をよしとする

る分母は、その
母とせんと
する数を除
し、その商
を分子に掛
けて分子と
するの分子
をかける。

- 九十間あり。(式・答及び解説を要す。)
- 二 $188928 \div 328 - 87 \times 5.46$
- 三 $(\frac{3}{4} + \frac{1}{7}) \times \frac{3}{23} \div (\frac{3}{11} - 1\frac{5}{22})$
(二と三は運算の順序を示すべし。)
- 四 定價一反四圓五十錢の反物二反を定價の六分引にて
買ひ、五圓紙幣二枚を出さばつり錢何程。
- 五 或人三千五百圓を三子に分つに、次子には末子の二倍、
長子には次子の二倍を與へたりと、各の所得何程。
- 六 目方七匁八分ある封書を郵便に出すときは郵便料何
程を出すべきか。

第十九課 約分・通分・加減乗除(練習問題)

一 約分

約分は分子と分母を同じ
度数だけ割
ればよい

一 次の分數を約分せよ。(又既約分數とせよ。)

$$\frac{24}{36} \quad \frac{56}{84} \quad \frac{144}{156}$$

二 通分

一 次の各組の分數を通分せよ。
 $(\frac{5}{8}, \frac{1}{6})$ $(\frac{7}{18}, \frac{4}{15}, \frac{5}{12})$

三 加法・減法

- 一 次の加法を行へ。
 $\frac{1}{2} + \frac{1}{3}, \quad \frac{1}{4} + \frac{1}{9} + \frac{3}{8}, \quad 3\frac{2}{5} + 9 + \frac{14}{15}$
- 二 次の引算をなせ。
 $\frac{3}{4} - \frac{1}{6}, \quad \frac{7}{15} - \frac{7}{20}, \quad 3\frac{13}{30} + 2\frac{17}{45}$

四 乗法・除法

一 次の積を求めよ。

第二編 算術科

通分するに
は各分母の
最小公倍数
を求めて公
分母とする
をよしとする

異分母は同
分母として
加法を行ふ
のである。

帯分數の整
數は分數の
和に加へれ
ばよろし。

整數は分子
に乘ずべし

- 一 0.1を256にて割り切るる迄割れ。
- 二 一三六坪と一段二畝二十二歩との地價一七六一・二圓なり。平均一坪の代何程。
- 三 $1\frac{13}{25} - \frac{12}{21} \times \frac{3}{5} \div 1\frac{1}{14}$
- 四 二十反にて十五圓の反物若干を買ひ、一反九十錢に賣りて三十圓を利せりと、買入れし反數何程なるか。
- 五 或人金六圓にて蜜柑六五〇個を仕入れ、これを一箇一錢づつに賣りたれども、多く腐りたるために十五錢の損をなせりと、腐りたる個數を問ふ。

第二十一課

分數應用問題(續)及び分數と

小數との關係(練習問題)

一 分數應用問題

(例) ① 五日間に四・二五圓稼ぐ職工は七日間に何程。

(解) 5日 = 4.25圓

故に 1日 = $\frac{4.25}{5}$ 錢

7日 = $\left(\frac{4.25}{5} \times 7\right)$ 錢

$\frac{4.25 \times 7}{5} = 5.95$ 答 五・九五圓

(例) ② 毎日九里づゝ、行きて八日要する道を、十二里づゝ、行かば幾日か、るか。

(解) 9里づゝ = 8日

故に 1里づゝ = $\frac{8}{9}$ 日

12里づゝ = $\left(\frac{8 \times 9}{12}\right)$ 日

$\frac{8 \times 9}{12} = 6$ 答 六日

- 一 米三俵の代二五・五圓ならば、十俵の代何程。
- 二 九本の代三十一錢五厘の筆を、八十四錢にて何本買ひ

かかる問題
は比例にて
はくべきも
解には歸一
法により分
數に應用す

修繕シウセン

- 得らるゝか。
- 三 縦八間横十五間の地と同じ廣さで、長十二間の地は幅幾間なるか。
- 四 四百人の兵士六十三日分の糧食を以て五百六十人の兵士を幾日支へ得るか。
- 五 或る時間内に八十人の工夫五町二十間の堤を築く、此の割にて二十五人にて幾町築き得るか。
- 六 毎日五町二十間づゝ道路の修繕をなして四十日かゝる事を、二十五日になさんには、毎日幾町づゝなすべきか。
- 七 五人にて一週間に一斗四升の米を要すとせば、八人にて三十日間に幾何の米を要するか。

$$\begin{array}{l} \text{解) } 5人 \quad 7日 \quad 14升 \\ 1人 \quad 7日 \quad \frac{14}{5}升 \\ \frac{14 \times 8 \times 30}{5 \times 7} = 96 \end{array}$$

$$\begin{array}{l} 1人 \quad 1日 \quad \frac{14}{5 \times 7}升 \\ 8人 \quad 1日 \quad \frac{14 \times 8}{5 \times 7}升 \\ 8人 \quad 30日 \quad \frac{14 \times 8 \times 30}{5 \times 7}升 \end{array} \quad \text{答 九斗六升}$$

織女オリメ

- 八 農夫三人十六日間に田地一町四段四畝を耕すとすれば、十一人の農夫二十日間に何程の田地を耕すか。
- 九 織女六人にて布三十反を織るに四日を要すとせば、七人にて八日間に何反織り得るか。

一 分數と小數との關係

一 次の分數を小數に直せ。但し小數第三位迄とし、餘は四捨五入せよ。

$$\frac{7}{8}, \quad \frac{9}{25}, \quad \frac{2}{3}$$

二 次の小數を分數に直せ。

分數を小數に直すには、分母で分子を割ればよい。
 小數を分數に直すには、小數の點を左に移動し、その移動した點の左に一の位を置く。
 一の位より左の位は、一の位の左に一の位を置く。

0.004 0.125 5.0072

第二十二課 雜 題(試驗問題)

けのりを附
けて分母と
し、その小
数の點を省
いて分子と
するのをあ
る。

- 一 横濱より神戸まで鐵道線路三百五十七哩、海路にて三百四十七哩あり。何れが何里何町近きか。
- 二 左の分數を大小の順にならべよ。

$$\frac{9}{10} \quad \frac{3}{4} \quad \frac{198}{240}$$

倉

- 三 東西兩倉の在米を檢せしに、東倉には八百九十五俵、西倉には千二百五十七俵ありたり。今兩倉の俵數を等しくせんとすれば、西倉より東倉へ幾俵移すべきか。
- 四 父の年齢四十三にして、長女は十六、次女十三、三女八歳なるあり。今三子の年齢の和が父に及ばぬだけ父より多くなる時は、父子四人の年齢各幾歳なるか。

- 五 定價若干の品を八掛にて賣りしに、定價より一圓二十八錢少かりしも、尙仕入直段より七十錢の利を得たりと、仕入直段何程か。

歩 合 算

第二十三課 比例問題(練習問題)

比とは甲數が乙數に對して幾倍なるといふ關係をいふ。甲の乙に對する比を甲數に乙數を對する比を乙數に對する比といふ。

- 一 次の各組の比の値を求めよ。

$$(9:3) \quad (8:12) \quad (15\text{A}:10\text{A}) \quad (7\frac{1}{2}\text{A}:3\frac{3}{4})$$

- 二 七尺にて一圓十二錢の切れは二丈にて何程。

(解) $12\text{圓} \times \frac{20}{7} = 380\text{錢}$ 答 二圓八十錢。

價は二丈の七尺に對する比である。故に一圓十二錢に此の比の値を乗じて答を求むるのである。

- 三 八個五錢の柿は十二個何程なるか。

第二編 算術科

正時ただし

攝氏寒暖計
は氷點を零
度とし沸騰
點を百度と
す。華氏寒
暖計は氷點
を三十二度
とす。華氏
を攝氏に改
むる時は、
下の反に、
始めに三
二度を減
じ、後に比
より計算す
べきである

- 四 一晝夜に九分進む時計を、今日午後二時に正時に合せ
おかば、明日正時の正午は、此時計の何時何分なるか。
- 五 大工が家を立つるに六十四日にて四分通りを建上げ
たり。此の割にて残りを建つるに尙幾日かかるか。
- 六 十五坪の借地代一圓八十錢の割にて、間口十三間、奥行
十一間の地を借入るれば借地料何程か。
- 七 攝氏寒暖計の三十五度は華氏の何度にあたるか。
- (解) $32 \times \frac{9}{5} + 32 = 95$ (正比) 答 九十五度。
- 上記により攝氏の一〇〇度を目盛りせるところを、華氏は二一二度よ
り三二度を減じたる一八〇度を目盛りせることがわかる。依りて兩者
の比は一〇〇と一八〇で、之を約すれば5と9となる。故に此の比で計
算して六三度を得、氷點が三二度であるを以て三二を加へ華氏の度と
す。

轉倒たひら

- 八 攝氏四十五度は華氏の何度か。
- 九 華氏七十七度は攝氏の何度か。
- 一〇 攝氏氷點下一〇度は華氏の何度か。
- 一一 毎日十二題づゝなして、八日かゝる算術を、十六題づ
つなさば幾日にてすむか。
- (解) $8 \text{日} \times \frac{12}{16} = 6 \text{日}$ (反比) 答 六日
- 一日になす題が増せば増す程、日数は減ずる故、十六の十二に對する反
比である。故に $16 \frac{12}{16}$ を轉倒して掛けたのである。
- 一二 或る仕事を十日に仕上げんには人夫三十人を要す
若し六日に成さんとすれば幾人を要するか。
- 一三 一行二十五字詰で四十九行ある字數を、三十五行と
なすには、一行の字數を何字増すべきか。

第二十四課 雜 題(試驗問題)

騰貴たか

一 蜜柑若干(五十個よりは少い)をテーブルの上にならべて見るに、一列を九個づつとしても、十二個づつとしても七個だけ端數を生ずといふ。蜜柑の數何程。

二 米百五石八斗四升を一圓につき六升三合にて買ひ置きしに、騰貴して一圓に五升六合となりたり。今之を賣り放さば利益何程となるか。

三
$$\frac{1}{7} - \frac{1}{3} + \left(\frac{1}{2} + \frac{1}{7}\right) + 4\frac{19}{28}$$

を最簡にせよ。

三
$$\frac{1}{4} - \frac{1}{4} + \frac{2}{5}$$

四 滿洲にては、寒暖計攝氏の氷點下十五度に下ることありといふ。之を華氏に改むれば何度なるか。

五 鶏ニハトリと豚ブタとを垣カキの内にあり。その頭數合計七十二にして、

脚數は百七十六本あり。然るときは鶏及び豚の數各何程なるか。

六 十二時間に二分遅るゝ時計あり。今日午後三時に正時に合せ置かば、明後日此の時計が午前十二時を打つとき正時は何分なるか。

第二十五課

比例問題(續) 元高歩合歩 合高との關係(練習問題)

一 比例問題(續)

一 甲は七日、乙は五日働きて金七圓二十錢の賃錢を得たり。働きたる日數に應じて分くれれば各何程づつなるか。

(解) $7^{\text{日}} + 5^{\text{日}} = 12^{\text{日}}$ 答 甲四圓二十錢 乙三圓

$$\frac{12^{\text{日}} \times 7.2^{\text{圓}}}{7^{\text{日}}} = 4.2^{\text{圓}}$$

$$\frac{12^{\text{日}} \times 7.2^{\text{圓}}}{5^{\text{日}}} = 3.4^{\text{圓}}$$

出資

- 二 三子あり。年齢の比に應じて田地九畝十歩を耕さんとするに、年齢長子は二三、次子は一八、末子は十五なり。各の耕すべき用地何程づつなるか。
- 三 資本金甲は五百圓、乙は六百圓、丙は四百五十圓を出して商をせしに、利益一〇八・五圓ありたり。之を出資の割に分ければ各何程。
- 四 三組の職工あり。その働きの比は七と八と四との比で人数の比は三と二と七との比である。今此の三組同日數働きて得たる賃錢五二圓を得たり。力と人数の比に分くれば、各組の所得何程か。
- 五 金十圓の義捐金を月給に應じて出金せんとするに、その月給、甲は四五圓、乙は三〇圓、丙は一五圓、丁は三五圓なり。各の出金何程づつなるか。

二 歩合歩合高元高

- 一 次の歩合を小数及び分數に書け。
五割、二割七分、一割八厘、九分、四厘、七分三厘、
- 二 次の公式を記憶して暗書せよ。
(1) 歩合高 = 元高 × 歩合 (2) 元高 = 歩合高 ÷ 歩合
(3) 歩合 = 歩合高 ÷ 元高
- 三 次の表の中にて未知のものを見出せ。

歩	合	高		12.8	60%	28%
元		高	45		500%	
歩		合	0.6	0.8		0.05

- 四 某小學校の兒童數千二百人ありて、その五割五分は男生なりと、男女各兒童の數何程。

歩合は分數を以て示さるゝことあり。歩合の分は歩とも書き又朱とも云ふ。歩合高は常に他のものに割らるゝ、歩合高は他の二者を掛けて求めらる。未知

募集まづめり

乗客ちやく

運搬うんぱん
破損はたん

辨償べんしょう

損益そんえき・地租
所得しとく・税問題
元高げんこう・何
歩合しゅが・歩合
高たかに當るか
をかん
へ、前の公
式に適合し
て計算をな
すべし。

- 五 某學校の入學志願者は七百五十人あり。然るに募集人員は僅に百二十人なり。志願者の何割に當るか。
- 六 汽車の乗客二千七百五十人中、二分は一等客、六分四厘は二等客、他は皆三等客なりと、各等の人員何程。
- 七 農夫あり、昨年は米二十八石四斗の收穫ありしも、今年水害のためその六分減じたりと。今年收穫米何程。

第二十六課 雜 題(試驗問題)

- 一 紙を継ぎ合はせるに、つぎ合を二分つとして糊をつくれれば八十六枚をつぎあはせるために糊をつける面積何程なるか。但し糊をつける部分の紙の長さ八寸なり。
- 二 ランプを運ぶに運び賃を一個につき二錢として、若し運搬中に破損せしものある時は一個につき實費四十六錢

一つ辨償することと定め(勿論そのものに對しては、運賃を拂はず)ランプ二〇〇個を運びて二圓〇八錢を得たりと、無事に運びしは幾個なるか。

三 $1.05 \times 0.0023 \div 0.0057$ 小數第三位以下四捨五入。

四 三人の女子共同して袋若干を貼りたり。その内姉は七分の四、残りの三分の二は弟の貼りたるものにて、妹は三十五枚貼りしのみと。姉と弟の貼りたるもの何程か。

五 車五臺にて毎日三回つづ十四日かかりて運ぶ荷物を、車七臺にて六日に運び終らんとせば、一日何回とすべきか。

第二十七課 歩合の問題(練習問題)

一 損益

- 一 一五〇圓にて買ひ入れたる家屋を三割二分の利を

- 得て賣らば、利益何程なるか。
- 二 或人金六九〇圓にて買入れたる機械を、三分の損をして賣り拂ひたりと、損失金何程なるか。
- 三 一俵七圓五十錢に仕入れたる米を八分利にして賣らんとせば、賣價何程とすべきか。
- 四 實際の賣價より一割五分高く定價をつけんとすれば、賣價八十錢の品の定價を何程とすべきか。
- 五 定價四・五圓の品を一割四分引で買ひ、五圓紙幣にて支拂へば釣錢何程か。
- 六 一尺三十五錢の割にて仕入れたる絹布一丈四尺を、五圓五十錢にて賣れば、損益の歩合何程。
- 七 墨八十五挺を買ひ、二割五分を利して賣りたるため、二・五五圓の利益を得たりと、墨一挺の賣價何程なるか。

二 地 租

- 一 地價三千六百圓の郡村宅地を有する人の一年に納むる地租何程。
- 二 地價八百七十圓の田地に對し、一箇年に地租四七・八五圓を納むとすれば、稅率何程。
- 三 市街宅地を有する人、一箇年に一六八圓の地租を納むといふ。此の人所有の地價何程。
- 四 地價六千五百圓の郡村宅地を市街宅地に編入すれば、一年間の地租何程増すか。
- 五 郡宅宅地を市街宅地に編入せしめたために、一年の地租一三八〇圓を増せし人の所有する土地の價格何程。

三 所得稅

- 一 一箇年四百五十圓の所得(第三種)ある人の一箇年の所

	地價に對する稅率		
	本 稅	非常特別稅	合 計
市街宅地	0.025	0.175	0.2
郡村宅地	0.025	0.055	0.08
他ノ土地	0.025	0.03	0.055

一年の所得の如しは左の通り
 第一種 三萬圓
 第二種 一萬圓
 第三種 五萬圓

得税何程。

- 二 月俸五十圓の人の一箇年の所得税金何程。
- 三 年俸八千圓の收入ある人、四百八十圓の所得税金を納めしといふ。税率を問ふ。
- 四 一箇年に所得税八四圓納むる人の毎月の收入平均何程なるか。
- 五 一箇年の所得金二五〇〇圓なりし人、三千圓に増せしために、所得税金一期分の増額何程なるか。但し一年を四期に分ちて納税するものとす。

第二十八課 雑題(試験問題)

- 一 $(\frac{3}{5} - \frac{2}{15}) \times \frac{1}{11} + \frac{2}{4} \div \frac{1}{22}$
- 二 甲は十二日にて仕上ぐる仕事を、乙は十五日を要す。今

所得金高	三百圓以上	五百圓以上	一千圓以上	二千圓以上	三千圓以上	五千圓以上	一萬圓以上
本税	0.01	0.012	0.015	0.017	0.02	0.025	0.03
非常特別税	0.01	0.0132	0.0195	0.0221	0.026	0.035	0.045
合計	0.02	0.0252	0.0345	0.0391	0.046	0.06	0.075

下落せしむる
豫定せしむる

- 甲が四日だけ仕事をなし、残りを乙が代つてなすときは、初めより幾日にして仕上るか。
- 三 太郎と次郎と體重の話なすを聞けば、太郎は九貫八百五十匁あるといひ、次郎は三五七匁あるといふ、何れが何匁重きか。
- 四 或物品を買價の三割二分の利を得て賣らんとせしに、物價下落せしたため豫定よりは十圓八十錢利益は少かりしも、尙八分の利ありしといふ。買價何程。
- 五 甲乙丙三人の所持金總計十五圓三十錢あり。甲より丙に一圓五十錢、乙より丙に四十五錢を與ふれば三人平均すといふ。現在各人の所持金何程。

第二十九課 歩合の問題(續) (練習問題)

一 種々の税金の問題

種々の税金に於て金
 問題は何れが
 も高合高な
 元歩合高な
 が歩合高な
 るかを知る
 こと必要
 である。多
 くの場合に
 税金は歩合
 高で賣上高
 或は製造高
 は元高に相
 當する。

- 一 醤油製造業者が諸味一石につき一圓七十五錢の税金を課せらるるとき、二百八十石の製造業者の納むる税金は何程か。
- 二 或人土地を買ひ之を登記するに印紙一二五・六五圓を要したりと、その土地の登記價格何程。但し税率は〇・〇三五。
- 三 營業稅卸賣は一箇年の賣上高の十萬分の八十五、小賣は其の三倍なるとき(税率は營業の種類により異なり)物品販賣業者一箇年の賣上高四千八百圓ある卸賣商の納税額何程か。又小賣業者なれば何程。
- 四 一箇年の納税金六・一二圓の小賣業者、一箇年の賣上高は何程。但し税率は前に同じ。

二 利息の問題

元金は元高
 利率は歩合
 利息は歩合
 高に相當
 する。知れ
 利息が知れ
 てある時は
 必ず割られ
 る。第一の
 式を記憶す
 る。よき記
 憶は、他の
 式より考へ
 出すことが
 できる。

一 次の公式を記憶せよ。

(1) 元金 × 利率 × 期間 = 利息 (2) 利息 ÷ (利率 × 期間) = 元金
 (3) 利息 ÷ (元金 × 期間) = 利率 (4) 利息 ÷ (元金 × 利率) = 期間

(注意) 利率には年利月利日歩等の別がある。年利とは一箇年に何割と
 か何分とかいへるにて、月利は一箇月の歩合である。日歩は前の二者と
 は異つて百圓に就いて一日に何錢とか何厘とかいふのである。

- 二 年一割二分の利率で、五百圓を三年間貸さば利息何程。
- 三 金五十圓を以て二箇年に利息十六圓を得る利率如何。
- 四 月利四分にて九ヶ月に利息二八八圓を得。元金何程。
- 五 年利一割八分の割にて、元金百五十圓を八ヶ月貸さば、利息何程となるか。

(解) $150 \text{圓} \times 0.18 \times \frac{8}{12} = 18 \text{圓}$

利率が年利である故に八ヶ月は一年に對して $\frac{8}{12}$ であるから期間を

式の如くして掛けたのである。若しまた一年八ヶ月ならば、 $8\frac{1}{12}$ とすべきである。

- 六 元金三百六十圓を年利一割五分にて二年三ヶ月借らば、利息何程を拂ふべきか。
- 七 元金百六十圓月利一步二厘にて、幾ヶ月の後に利息二八・八圓となるか。

第三十課 雑 題(試験問題)

- 一 百八十哩を離れたる兩地より同時に相向つて出發せる二人あり。甲は一日七里二十町づつ、乙は五里三十町づつ、行くとすれば、六日目の朝、兩人の距離何程なるべきか。
- 二 半紙を若干の子供に分與せんとし、一人分を七枚づつとすれば、三人分残る。よつて十二枚づつ、與へんとすれば、二人分不足すといふ。子供の數如何。
- 三 二十四町三十七間三尺を里になほせ。但し小數第三位までとし、餘は切り捨つべし。
- 四 某數に $\frac{1}{5}$ を乗じ $\frac{6}{9}$ を加へ $\frac{2}{3}$ にて除し、其の商より $\frac{7}{8}$ を減ずれば $\frac{1}{10}$ となるといふ。某數何程。
- 五 金三圓五十錢の品を一割六分儲けて賣らんと思ひしに、小僧は之を四圓二十錢にて賣りたり。豫定に比して多少如何。

距離
分與

第三十一課 歩合の問題(續)(練習問題)

一 利息の問題(續)

- 一 次の公式を記憶せよ。
- (1) 元利合計 = 元金 × (1 + 利率 × 期間)

前の如く、
第一の公式、
すばよく記憶せよ、
他

の三式は考へ出さるるが、
返却せらる。

- (2) 元金 = 元利合計 ÷ (1 + 利率 × 期間)
 - (3) 利率 = (元利合計 ÷ 元金 - 1) ÷ 期間
 - (4) 期間 = (元利合計 ÷ 元金 - 1) ÷ 利率
- 二 元金若干圓を月利二歩で貸し、一年半の間に元利合計八百十六圓となれり。元金何程。

(解) $816 \div (1 + 0.02 \times 18) = 600$ 圓 答六百圓

期間一年半は月利である故に十二ヶ月に六ヶ月即ち十八ヶ月として、
公式により右の如くして元金を求め得。

- 三 元金千二百五十圓を年利八分にて六ヶ月貸さば、元利合計何程となるか。
- 四 日歩一錢二厘にて元金五百圓を三十日間預け置けば、元利何程となるか。

(解) $500 \times \left(1 + \frac{0.012}{100} \times 30\right) = 501.8$

前に云へるが如く、日歩は百圓に對しての利率ゆゑ、利率を $\frac{0.012}{100}$ として、
公式を應用したのである。

返却せらる。

- 五 或る銀行から千五百圓を借り、五十日後に至り、日歩一錢四厘の割に利を添へて返却すれば、元利何程か。
- 六 元金二百圓月利一分五厘元利合計二百三十六圓なるときは期間何程。

二、公債株式

- 一 五分利付國庫債券額面百圓のものを八枚有する人の年々受取る利子何程か。
- 二 東京市公債を有する人年々利子七十八圓を受取るといふ額面百圓のもの何枚を有するか。但し税率は年六分。
- 三 五分利公債額面百圓のものを九十圓に買へば利廻何程。

(解) $100圓 \times 0.05 \div 90 = 0.056圓$ 答五分六厘弱

百圓の五分即ち五圓は九十圓の利息にあたる故に九十にて除して歩合を求めたのである。

市中にて賣
買する價を
時價或は相
場といふ。

- 四 或る株、一株百圓のものを百五十圓にて買ひ、年一割二分の配當を得れば金利何程。
- 五 株を額面百圓につき八十七圓にて買ひ、九十一圓にて賣れば額面千圓にて、何程の利益あるか。
- 六 額面百圓につき、九十三圓の時價にて千二百九圓出して買ひたる公債の額面高幾何。
- 七 軍事公債額面百圓のもの十二枚有する人の毎回得る利子は何程。但し利率は五分にして、利子は一年二回に拂渡さる。

第三十二課 雜 題(試驗問題)

- 一 竿の長さの八分の三を水に入れしに底に達したり。更に倒にして水の底まで達せしめしに、尙濡れざるところ三尺ありたり。水の深さ何程なるか。
- 二 甲一人ならば四日にして一冊の書物を寫す。若し乙と共同すれば、右の如き書物七冊を十二日に寫し得べしといふ。然らば乙一人一冊をうつすには幾日を費すべきか。
- 三 甲は一日に九里三十町づゝ進む割合にて百二十二里の地へ行かんとせしに、甲と同時に先地を發せる乙と六日目の夜、一つ宿屋に落ち合ひたり。乙一日の速さ平均幾里なるか。

四 $3.3 \div 0.75 + 18.7 \times 0.0092$

五 次の最大公約數を求めよ。

795, 424, 318.

第三十三課 雜 題(練習問題)

漕力サウリキョク

一 一時間に二里二十七町の漕力を有する水夫、三十六里の河を溯りしに二十四時を要したり。然らば元の地へ漕ぎ下る時は幾時間を要するか。

答九時

(解) $36 \times \{24 \div 27\} + (24 \div 27 \times 36 - 24) = 9$

三六里を二四時で上りし故、 $36 \div 24$ 上り一時間の(水流に妨げられたる残りの)速さを得て、漕力より減ずれば水力となる。而して此の一時間の水力は下る時には漕力に加はりて三十六里を進む、故に右の如くして九時を得。

湓流ソウリウ

二 水流の速一時に半里なる湓流、十五里を下るに六時間を要せしとせば、同所を上るに幾時間を要するか。

三 定價の二割引の品金七十六錢なるもの、定價何程。

竣工クワンコン

四 道路十二町四十間を或る期間に修繕すべく工夫八人を雇入れたるに更に九町三十間を増すことゝなれり。されど前期間内に竣工せんには、尙幾人を備ふべきか。

往訪オウホウ

五 甲友人は九日毎に必ず來訪し、自分は十二日毎に往訪することゝ定めたり。而して兩人の訪問日に當る時は共に散歩することゝせり。幾日毎に一回散歩することゝなるか。

誤り易き故
疊の數に注意すべし。

六 疊替をなすに一疊分九十二錢を要す。今二間四方の間二間、二間に一間半の間一間、一間半四方の間二間、四方の間一間の疊替をなすに幾何を要するか。

七 河岸より炭俵を運ぶに、甲は九回にて運び終り、乙は十二回にて悉く運ぶ。而して一回分甲と乙との差は四俵なりと、炭の全數何俵なるか。

第三十四課 雜 題(試驗問題)

屋根の形は
梯形なり。

- 一 屋根の棟の長さ十四間、檐の長さ十九間、棟より軒端までの垂直線の長さ四間あり。その面積何程か。
- 二 金三百六十圓を月利一分五厘にて八ヶ月貸すと、同金額を年利二割にて半年貸すことにては利息の差何程なるか。
- 三 $(\frac{3}{5} - \frac{1}{15}) - \frac{4}{8} \cdot \frac{3}{2} = 1$
- 四 甲資本金千五百圓を以て商業を始めしに、四ヶ月の後乙二千圓を以て共に營業することとなり、かくして一ヶ年の後利益金一千二十圓を得たり。出資金と月數に應じて分くれは各何程づゝなるか。
- 五 蜜柑十五づゝを十四人に分たんとせしに三人分不足せりと。蜜柑總數何程なるか。

第三十五課 雜 題(練習問題)

- 一 甲五日にてなすことは乙は三日になす。今此の兩人或工事を共になして賃錢五八・四十錢を得たり。之を力の比に分配すれば各何程づゝなるか。

(解) $\frac{1}{5} + \frac{1}{3} = \frac{3}{15} + \frac{5}{15}$ 甲の力は $\frac{1}{5}$ 乙の力は $\frac{1}{3}$ 同分母とすれば、 $\frac{3}{15}$ と $\frac{5}{15}$ となる、即ち力の比は甲₃乙₅となる故に、 $3+5=8$

87 58.4円 $58.4 \times \frac{3}{8} = 21.9$ 答 甲 二一・九圓

37 58.4 $58.4 \times \frac{5}{8} = 36.5$ 乙 三六・五圓

- 二 兄が五時間で寫し終る本を弟は九時間を要す。兩人共同して四十二枚寫したりとせば、各幾枚づゝなるか。
- 三 九二本を $1\frac{1}{2} \cdot 2\frac{2}{3} \cdot 3\frac{3}{4}$ の比に分たば、各何本づゝなるか。

るか。

- 四 内法縦一尺四寸七分、横九寸八分、深さ八寸七分なる箱は何升入りなるか。又此の中に満したる水の目方何程。
- 五 大小二數あり。其の和百七十三にして、大數は小數の三倍より十七多しと、各數幾何。 答小三十九 大百三十四

(解) $(173-17) \div (1+3) = 39$ $39 \times 3 + 17 = 134$

一七三より一七を減じたる残りの數即ち一五六は小數を一とし大數を三としたるもの、和と等しき故和の比にて實數を割れば一に對する實數即ち小數三九を得、之を三倍して一七を加ふれば大數となる。

- 六 お松お梅兩人の所持金合計四三八圓にて、お松はお梅の二倍より五四圓少く所持すと、兩人の所持金何程なるか。
- 七 或る見世物の入場客中、二等客は一等客の二倍、三等客は二等客の六倍より十六人多く、總計五七一人なりと、各等

三等客は一等の二倍なる二等の六倍より多きことに注意せよ。

幾人づゝなるか。

第三十六課 雜 題(試驗問題)

- 一 二つの砂糖桶あり。甲の桶には六・二五貫あり。乙の桶には二・五四貫あり。今甲桶の分を乙桶の四倍とせんとすれば、乙桶より甲桶に何程移すべきか。
- 二 二十五町ある道路へ電話柱を立つるに、柱と柱との間を三十間とし、且つ三本目毎に電燈を點せんとす。然るときは電話柱の數及び電燈の數各何程なるか。
- 三 一時間に二十三湮の軍艦あり。二十八湮の先方にありて、一時間に八里三十五町の速力を以て逃走しつゝある海賊船を追航するときは、今より何時間の後、之に追ひつき得べきか。

逃走

追航

- 四 大人八人子供五人にて若干日働きて、賃錢九十一圓三十錢を得たりと。子供一人の賃錢を大人一人分の五分三とすれば、大人子供各一人分の所得何程。
- 五 $1.23 - 0.054 \div 0.05 + 4.5 - 0.2 \times 1.5 \times 3$
- 六 月俸六十圓の人の一箇年の所得税何程か。

第三十七課 雜 題(練習問題)

缺勤

- 一 工夫あり出勤の日は給料の外に特別に五錢づゝ給せらる。然るに缺勤すれば特別手当を得ざるのみならず、却つて十五錢づゝ罰金として差引かるゝ定めにて、一月一ヶ月に得たる特別給與僅に五十五錢なりしと、一月中缺勤の日數幾日か。

(解) $(5 \times 31 - 55) \div (5 + 15) = 5$

答五日

一月中に五錢の三十一倍、一圓五十五錢得べかりしに所得より一圓少なきは缺勤一日のために五錢得ずして十五錢引かるゝ故二十錢の損をせしめたり。此の一日分で一圓を割りて所求の日數を得。

- 二 慈善會を開きて來會者の紳士よりは一人三圓の寄附を乞ひ、貧困者には一人一圓を與へたりしに、當日の來會者總數一八五人にて、當日の會場費二十圓を拂ひ、差引七圓残りたりと。紳士及び貧困者各幾人なりしか。
- 三 入場料大人金十五錢子供金八錢の興業場に於て或日入場者總計八六八人にて、收入金一〇五圓三五錢ありたり。大人子供各幾人なるか。
- 四 職工あり、一日の賃錢七十五錢にて二週間働き、其の得たる金にて一圓につき五升六合の米を一斗四升買ひたりと、殘金何程なるか。

下の式の説明を考へて見よ。

(六)は(五)と少し違ふ。

道の程

- 五 所持金の三分一にて本を買ひ、残りの五分三にてシヤツを買ひしに、残り四十五錢になりたりと。初の所持金何程。
(解) $45x + (1 - \frac{3}{5})x + (1 - \frac{1}{3})x = 180x$ 答一圓八十錢
- 六 若干枚の紙を初めに四分の一費し、次に十四枚費せしも、尙初めの六分の一ありと、初めの紙幾枚か。
- 七 或る道を第一日に七分一ゆき、第二日には残りの九分七行きしに、残り四里となりたり。全道の程何程。

第三十八課 雑題(試験問題)

- 一 甲は一分に三十六間づゝ行く割合を以て進行を始めたり。それより五分を経て乙は出發し三十分にして追ひつきたりと。乙一分の速さ何程なるか。
- 二 或る家にては一日に米一升六合五勺を要す。然らば一

圓につき五升五合のとき、三月十八日より四月六日迄に費す米代何程か。

三 某處に於て空中飛行船が二五〇〇米昇れりと、之を間尺に直せ。

四 十五人の人夫毎日八時間づゝ働きて、十四日かかりし仕事を、二十四人にて前の半分の日數で仕上ぐるには、毎日幾時づゝ働くべきか。

五 $2.08 + 9\frac{1}{7} \times 2\frac{5}{8} \div 8.4 - 3\frac{4}{25}$

算術科解答

(解答ノ簡易ナルモノハ省ク)

第一課 加・減・乘・除

- 三 乘法 (I) 44952336 (II) 688.23 (III) 0.113386 (IV) 67.41694. (V) 除法 (I) 318
- (II) 7 (III) 2.46 (IV) 104000

第二課 雜題(試驗問題)

- (I) 168條 (II) $3\frac{11}{12}$ (III) 29.574磅 (IV) $25 \times 12 \times (1 - 0.05) = 288$ 圓
- (V) $3.3 \text{尺} \times [12 \div (1 - \frac{3}{7}) \times \{1 - (\frac{3}{7} + \frac{2}{9})\}] = 24.1 \text{尺}$

第三課 四則雜題

- I 四則計算 (I) 6.15 (II) 64 (III) 61 (IV) 34 II 四則應用問題 (I) 157 (II) 甲 45里, 乙 29里 (III) 兄 12枚, 弟 9枚 (IV) 親 3圓, 子 75錢 (V) 1.45圓 (VI) 43 (VII) 87.5錢 (VIII) 弟 74個, 梨 59個, 核桃 39個

第四課 雜題(試驗問題)

- (I) 10時 45分 (II) 2 (III) 0.1209664 (IV) 2人 (V) $3\frac{1}{5}$ 時

第五課 長さ・面積・體積・梅田

- I 長さ (I) 15尺, 10.625尺, 5.5尺 (II) 6.4尺, 6尺, 16尺 (III) 49寸, 39寸, 32寸 (IV) 15.7尺 (V) 2.5尺 (VI) 3.87寸 II 面積 (I) 9平方尺 (II) 96平方寸 (III) 252平方寸 (IV) 6平方尺 (V) 500平方寸, 50000平方寸 (VI) 15.6平方寸, 0.156平方尺 (VII) 2.5寸 (VIII) 282.6平方尺 (IX) 296平方寸 III 體積 (I) 5600立方寸, 5600000立方寸 (II) 0.072立方尺, 72000立方寸 (III) 4立方尺 (IV) 3.375立方尺 (V) 1.3尺 IV 梅田 (I) 64倍 (II) 5.5合 (III) 49分 (IV) 123.4升餘 (V) 42升

第六課 雜題(試驗問題)

- (I) 24倍 (II) 0.051992 (III) $2\frac{3}{4}$ (IV) 3.4里 (V) $(1 \times 64 - 50) \div (1 - 0.5) = 28, 64 - 28 = 36$
- 1錢 36個, 5厘 28個 (VI) $27^m \div 3 \times 2 = 18$ 町

第七課 目方・貨幣・里程

- 一 目方 (1) 560^方 (2) 4.8^貫 (3) 7.68^貫 (4) 19.2^貫 (5) 9^錢 (6) 2^錢 (7) 62.5^匁
- 二 貨幣 (1) 116 (2) 27^圓 (3) 27.6^錢 餘 (4) 圓銀 (5) 156^町 (6) 6480^間
- (3) 1132^間 (4) 83^尺 (5) 4345^間 (1) (2) 2里 6町 (3) 1里 7町 14間 (3) 2里 25町 56間
- 5尺 (4) 12町 42間 (5) 3町 24間 3尺 (3) (4) 0.5^間 (3) 8.7^間 弱 (3) 20.2^町 (4) 2.5里
- (5) 15.24^町 (4) (1) 8間 3尺 (2) 22町 30間 (3) 27^間 (4) 1町 22間 4.8尺 (5) 2里 32間
- 2.4尺

第八課 雜題(試驗問題)

- (1) $15.48^{\text{里}} + (1+3) + 4.28 = 8.15^{\text{里}}$ 甲 $15.48^{\text{里}} - 8.15^{\text{里}} = 7.33^{\text{里}}$ 乙 (1) 10日 (2) 0.0054 (3) 144^里
- (5) $\frac{21}{9}$ (6) 3月 (7) 9^圓

第九課 里程(加・減・乘・除)地積(通法・命法)

- 一 町銀 (1) (2) 5里 6町 45間 5尺 (2) (3) 1里 2町 24間 3尺 (3) (4) 46里 11町 41間 2尺
- (4) (1) 1里 7町 40間 (3) 2里 23町 21間 5尺 (5) (7) 8 (3) 12 (1) 粟銀 (1) (2)

- 1863^畝 (2) 55890^步 (1) (2) 8町 9段 6^畝 (3) 7町 1段 8^畝 20^步 (3) 37町 6段 5^畝 15^步
- (3) (4) 0.73^町 (3) 24.6^畝 (3) 16.48^段 (4) (1) 12町 4段 9^畝 (3) 1^畝 18^步 (3) 3段 4^畝
- 28^步

第十課 雜題(試驗問題)

- (1) 1町 30間 $\times \frac{5}{6} + 1 = 76$ (本) (1) $6\frac{13}{24}$ (3) $5 \times 25 + 4 \times 40 + 3 \times 35 = 390$ $62.4^{\text{間}} \times \frac{125}{390} = 20^{\text{里}}$ 甲
- $62.4^{\text{間}} \times \frac{160}{390} = 25.6^{\text{里}}$ 乙 $62.4^{\text{間}} \times \frac{105}{390} = 16.8^{\text{里}}$ 丙 (4) 甲乙兩者之最小公倍數 48^分
- (5) 365^間 前者長也。

第十一課 地積(加・減・乘・除面積)

- 一 畝銀 (1) (2) 2町 6段 9^畝 4^步 (2) 25町 2段 5^畝 26^步 (3) 4段 9^畝 22^步 (4) 5段
- 7^畝 27^步 (5) 9町 9段 4^畝 15^步 (1) 圓銀 (1) (2) 65025^坪, 32400^坪 (3) 1000^坪, 40
- 00^坪 (3) 20^坪, 67.5^坪 (1) (2) 432^坪 (3) 89^坪 (3) 78.5^坪 (3) 拾圓 (1) (2) 19080
- 秒, 185740^秒, 122440^秒, (2) 12.64^時, 9.65^日 (3) 5日 17時 40分, 4日 3時 21分 24^秒
- (1) (2) 9日 4時 50分 50^秒 (3) 1日 16時 34分 37^秒 (3) 28日 7時 55分 30^秒 (3) 15時 13^分

算術科解答

(B) 8圓10錢 (C) 5金曜日 (D) 19尺

第十二課 雜題(試驗問題)

- (I) $37 \times 24 - (10 \div 2)^2 \times 3.14 = 2$ 段 6故 29.5歩 (II) $(22.5^m + 5 - 22.5^m \div 15) \div 2 = 1.5^m$ 水力 22.5^m + 5 - 1.5^m = 3^m水力 (III) $2.74^m \div (1 - \frac{1}{3}) \div (1 - \frac{1}{2}) = 8.22^m$ (IV) $8\lambda + 10\lambda \times \frac{3}{5} = 14\lambda$ 28^m × $\frac{16}{14} = 32^m$ 32^m - 28^m = 4^m (V) $9\frac{1}{7}$ (C) 23.

第十三課

メートル・センチメートル

- (I) 3200尺, 8250尺, 59尺 4寸 (II) 1寸 6分 5厘 (III) 21町 49間 (IV) 3778米強 (V) 6米 403米強, 3種 (VI) 45圓 98錢 (VII) 3927米強, 1609米強, 1855米弱 (VIII) 圓 1 (IX) 30 000平方糎, 0.0005平方米, 500平方糎 (X) 100町 8段 3畝 10歩 (XI) 4000平方米 (XII) 30 平方糎 (XIII) 圓 1 (I) 61立方米 (II) 6144立方糎 (III) 392500平方糎 (IV) 267.947 立方糎 (V) 圓 1 (I) 16立, 2580立, 1.54立 (II) 5.5435合 (III) 1.8立強 (IV) 18立 (V) 31.3糎弱 (VI) 圓 1 (I) 3.2久, 67.2久, 2000久 (II) 30瓦, 1.5瓦, 90軒 (III) 知 (IV) 180瓦 (V) 乙200久重し

第十四課 雜題(試驗問題)

- (I) $(41 + 28 + 33) \div 2 - 41 = 10$ 末 次子18歳 長子23歳 (II) 3尺 $\div (\frac{1}{3} - \frac{1}{4}) = 36$ 尺繩. 36^R × $\frac{1}{4} = 9^R$ 木の周 (III) $21\frac{2}{3}$ (IV) 0.06立 (V) 3錢 2厘損 (VI) 午後8時 7分

第十五課 外國度量衡

- (I) 強 弱 (II) 6尺 4分弱 (III) 22碼 (IV) 19哩 10鎖 (V) 二目方 (VI) 約3尺 (VII) 66号 強 (VIII) 2.2封度弱 (IX) 3.543噸 (X) 雜題 (XI) 43分 38秒餘 (XII) 27分 16秒餘 (XIII) 16分 22秒餘, 49分 5秒餘 (XIV) 7時 53分 22秒餘 (XV) 9本 (XVI) 48間

第十六課 雜題(試驗問題)

- (I) 24本 (II) 0.884強 (III) $1\frac{4}{9}$ (IV) $(6 + 3) \div (7 - 6) = 9.9$ 人 (V) 汽車3.75町多

第十七課 倍數・約數・分數の種類と他法

- (I) 倍數 (II) 30, 60, 360, (III) 約數 (IV) 15, 13, 17, 19, (V) 應用題 (VI) 144尺 算術科解答 一八三

大2回,小3回 (二)65枚 (三)18分 (四)33人 林檎 6個 梨 5個

第十八課 雜題(試驗問題)

- (一) $(18^{\text{th}} + 90^{\text{th}}) \div 6^{\text{th}} = 3.25$. 3分 15秒 或は 3.25分 (二) 100.98 (三) $\frac{99}{574}$ (四) 1圓 54錢
- (五) 長子 2千圓, 次子 1千圓, 末子 5百圓 (六) 6錢

第十九課 約分・通分・加減・乘・除

- 一 約分 (一) $\frac{2}{3}, \frac{2}{3}, \frac{12}{13}$ 三 加減法 (一) $\frac{5}{6}, \frac{53}{72}, \frac{13}{3}, \frac{1}{12}, \frac{7}{60}, \frac{7}{60}, \frac{1}{18}$
- 四 乘・除法 (一) $\frac{1}{19}, \frac{3}{4}, \frac{1}{6}, \frac{1}{20}, \frac{2}{7}, \frac{1}{6}$ (二) $24, \frac{1}{14}, \frac{1}{5}, \frac{1}{7}, \frac{5}{7}, \frac{1}{7}$ 五 雜題
- (一) (一) $2\frac{3}{7}$ (二) $2\frac{11}{24}$ (三) $\frac{95}{317}$ 六 應用題 (一) $3\frac{1}{13}$ H (二) 大 75錢, 小 25錢
- (四) 18尺 (五) 15分

第二十課 雜題(試驗問題)

- (一) 0.000390625 (二) 13.4圓 (三) $1\frac{1}{5}$ (四) 200反 (五) $650 - (6 - 0.15) \div 1 = 65$ 個

第二十一課 分數應用問題・分數と小數との關係

- 一 分數應用問題 (一) 85圓 (二) 24本 (三) 10問 (四) 145日 (五) 1町 40問 (六) 8町 32問
- (八) 6町 3段 (九) 70反 二 分數と小數との關係 (一) 0.875, 0.36, 0.667,
- (二) $\frac{1}{250}, \frac{1}{8}, \frac{5}{1250}$

第二十二課 雜題(試驗問題)

- (一) 17里 21町 15問 (二) $\frac{198}{240}, \frac{3}{4}, \frac{9}{15}$, (三) $(1257^{\text{th}} + 7895^{\text{th}}) \div 2 - 895^{\text{th}} = 181^{\text{th}}$ (四) $\{43 - (16 + 13 + 8)\} \times 2 \div (3 - 1) = 6$ 母の年齢を各自の年齢に加へる 父 49 長女 22 次女 19 三女 14. (五) 5圓 70錢.

第二十三課 比例問題

- (一) $3, \frac{2}{3}, 1\frac{1}{2}, 2$. (二) 7.5錢 (三) 12時 8分 15秒 (四) 96H (五) 17.16圓 (六) 113度 (七) 25度
- (八) 140 (九) 50人 (十) 10字増

算術科解答

第二十四課 雜題(試驗問題)

- (I) 9.12 の最小公倍数に 7 を加へる 43個 (II) 210個 (III) $\frac{2}{3}$ (IV) 5度 (V) $(176^* - 2^*$
 $\times 72) \div (4^* - 2^*) = 16$, 豚 16頭 雞 56羽 (VI) 午後 0時 7分 31秒

第二十五課 比例問題、元高・歩合、歩合高との關係

- I 比例問題 (I) 長子 3畝 25歩, 次子 3畝, 末子 2畝 15歩 (II) 甲 35圓, 乙 18.8圓, 丙 31.5圓 (III) 甲 16.8圓, 乙 12.8圓, 丙 22.4圓 (IV) 甲 3.6圓, 乙 2.4圓, 丙 1.2圓, 丁 2.8圓
 II 歩合・元高・歩合高 (I) 27, 16, 0.12, 560枚 (II) 男 660人, 女 540人, (III) 0.16 (IV) 一等 55人, 二等 176人, 三等 2519人 (V) 2669.6枚

第二十六課 雜題(試驗問題)

- (I) $\{2 \times (86 - 1)\} \times 8 = 136.136$ 平方寸 (II) $(2^* \times 200 - 208^*) \div (46 + 2) = 4$. $200^* - 4個 = 196個$
 (III) 0.424弱 (IV) 姉 140, 弟 70, (V) 5回

第二十七課 歩合の問題

- I 損益 (I) 368圓 (II) 20.7圓 (III) 8.1圓 (IV) 92錢 (V) 173錢 (VI) 0.122強 (VII) 15錢
 II 地租 (I) 288圓 (II) 0.055 (III) 840圓 (IV) 780圓 (V) 11500圓 (VI) 所得 三所
 得税 (I) 9圓 (II) 15.12圓 (III) 0.06 (IV) 35圓 (V) 10.063圓弱

第二十八課 雜題(試驗問題)

- (I) $2\frac{3}{50}$ (II) $4^* + (1 - \frac{4}{12}) \div \frac{1}{15} = 14$. 14日 (III) 太郎 330枚重 (IV) $10.80^* \div (0.32 - 0.08)$
 $= 45$. 45圓 (V) 甲 6.65圓, 乙 5.55圓, 丙 3.15圓

第二十九課 歩合の問題(續)

- I 種々税金問題 (I) 490圓 (II) 3590圓 (III) 40.8圓 郵, 12.24圓 小賣 (IV) 2400圓
 II 利息問題 (I) 180圓 (II) 0.16 (III) 800圓 (IV) 121.5圓 (V) 1年 3月

第三十課 雜題(試驗問題)

- (I) $14^* 45^* \times 180 - (7^* 20^* + 5^* 30^*) \times 5 = 6^* 29^*$ (II) $(7^* \times 3 + 12^* \times 2) \div (12^* - 7^*) = 9$. 9人 (III)

算術科解答

0.684里 (四) 3 (五) 14錢益

第三十一課 歩合の問題(續)

- 一 利息問題 (三) 1300圓 (五) 1510.5圓 (六) 1年 二 公債株式 (一) 40圓
- (二) 13枚 (四) 0.08 (五) 40圓 (六) 1300圓 (七) 30圓

第三十二課 雜題(試驗問題)

- (一) $3^R + (1 - \frac{3}{8} \times 2) = 12$ 尺 (二) $1 \div (\frac{7}{12} - \frac{1}{4}) = 3$. 3日 (三) 10里 18町 (四) 4.57204 (五) 53.

第三十三課 雜題(練習問題)

- (一) 10時 (三) 95錢 (四) 6人 (五) 36日 (六) 30.36圓 (七) 144袋

第三十四課 雜題(試驗問題)

- (一) 66坪 (二) 月利7.2圓多 (三) $\frac{1}{4}$ (四) $1500 \times 12 + 2000 \times (12 - 4) = 34000$. $1020^{\text{甲}} \times \frac{18000}{34000} = 540^{\text{甲}}$ 甲, $1020^{\text{甲}} \times \frac{16000}{34000} = 480^{\text{甲}}$ 乙 (五) $15^{\text{甲}} \times (14 - 3) = 165^{\text{甲}}$ 個

第三十五課 雜題(練習問題)

- (一) 兄27枚, 弟15枚 (二) 24本, 32本, 36本 (三) 18升, 8貫, 640匁 (四) お松27.4圓, お梅16.4圓 (五) 一等37人, 二等74人, 三等460人

第三十六課 雜題(試驗問題)

- (一) $2.54 - (6.25 + 2.54) \div (1 + 4) = .782$ 匁 (二) 柱51本, 電燈18箇 (三) 7時間 (四) $91.3 \div (8 + 5 \times \frac{3}{5}) = 8.3^{\text{甲}}$ 大人 $8.3 \times \frac{3}{5} = 4.98^{\text{甲}}$ 子供 (五) 3.75 (六) 18.144圓

第三十七課 雜題(練習問題)

- (一) 紳士53人, 貧者132人 (二) 大人513人, 子供355人 (三) 8圓 (四) 24枚 (五) 21里

第三十八課 雜題(試驗問題)

- (一) $36^{\text{甲}} + 36^{\text{甲}} \times 5 \div 30 = 42^{\text{甲}}$ (二) $31^{\text{甲}} - 17^{\text{甲}} + 6^{\text{甲}} = 20^{\text{甲}}$ $1.65^{\text{甲}} \times 20 \div 5.5^{\text{甲}} = 6$. 答6圓 (三) 22町 55間 (四) 10時 (五) $1 \frac{136}{175}$

算術科解答